

2020年度
大学院スポーツ健康学研究科
講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基礎科目 【S5010】 研究デザイン・フィロソフィー [井上 尊寛、泉 重樹、山本 浩、安藤 正志、木下 訓光、永木 耕介、瀬戸 宏明、Nemes Roland、平野 裕一、吉田 政幸、鬼頭 英明、伊藤 真紀、荻部 俊二、高見 京太] 春学期授業/Spring	1
基礎科目 【S5020】 スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学) [山田 快] 秋学期授業/Fall	3
基礎科目 【S5030】 スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学) [木下 訓光、瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	4
基礎科目 【S5040】 スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学) [石井 隆憲] 秋学期授業/Fall	5
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6010】 公衆衛生学特論 [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	6
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6020】 健康体力学特論 [林 容市] 秋学期授業/Fall	7
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6030】 健康心理学特論 [飯田 麻紗子] 春学期授業/Spring	8
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6040】 スポーツ栄養学特論 [小清水 孝子] 秋学期授業/Fall	9
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6050】 運動器疾患特論 [安藤 正志] 春学期授業/Spring	10
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6060】 学校保健学特論 [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	11
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6070】 体力・機能測定評価演習 [林 容市] 春学期授業/Spring	12
展開科目 (ヘルスプロモーション科目群) 【S6080】 運動疫学演習 [笹井 浩行] 春学期授業/Spring	13
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S6090】 スポーツマネジメント特論 [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	14
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7020】 スポーツ産業学特論 [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	15
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7030】 スポーツ健康政策学特論 [海老島 均] 秋学期授業/Fall	16
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7040】 スポーツジャーナリズム特論 [山本 浩] 秋学期授業/Fall	17
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7050】 スポーツメディア特論 [赤堀 宏幸、海老名 徳雪] 春学期授業/Spring	18
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7100】 スポーツ組織構造特論 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	19
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7070】 スポーツ消費者行動特論 [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	20
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7080】 スポーツフィールドスタディー演習 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	22
展開科目 (スポーツマネジメント科目群) 【S7090】 スポーツマーケティングリサーチ演習 [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	23
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8010】 スポーツコーチング学特論 [荻部 俊二] 秋学期授業/Fall	24
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8020】 スポーツ運動学特論 [平野 裕一] 春学期授業/Spring	25
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8030】 スポーツバイオメカニクス特論 [平野 裕一] 秋学期授業/Fall	25
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8040】 スポーツトレーニング学特論 [Nemes Roland] 秋学期授業/Fall	27
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8050】 発育発達学特論 [高見 京太] 秋学期授業/Fall	28
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8060】 スポーツ教育学特論 [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	29
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8080】 チームビルディング演習 [山田 快] 秋学期授業/Fall	30
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8090】 アスレティックトレーニング特別演習 [泉 重樹] 春学期授業/Spring	31
展開科目 (スポーツコーチング科目群) 【S8100】 保健体育科教育法特別演習 [永木 耕介、鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	32
研究指導 【S9010】 スポーツ健康学演習Ⅰ [安藤 正志] 春学期授業/Spring	33
研究指導 【S9011】 スポーツ健康学演習Ⅰ [泉 重樹] 春学期授業/Spring	33
研究指導 【S9012】 スポーツ健康学演習Ⅰ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	34
研究指導 スポーツ健康学演習Ⅰ [高見 京太] 春学期授業/Spring	35
研究指導 【S9019】 スポーツ健康学演習Ⅰ [平野 裕一] 春学期授業/Spring	35
研究指導 【S9021】 スポーツ健康学演習Ⅰ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	37
研究指導 【S9024】 スポーツ健康学演習Ⅰ [林 容市] 春学期授業/Spring	38
研究指導 【S9110】 スポーツ健康学演習Ⅱ [安藤 正志] 秋学期授業/Fall	39
研究指導 【S9111】 スポーツ健康学演習Ⅱ [泉 重樹] 秋学期授業/Fall	40
研究指導 【S9112】 スポーツ健康学演習Ⅱ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	41
研究指導 スポーツ健康学演習Ⅱ [高見 京太] 秋学期授業/Fall	42
研究指導 【S9119】 スポーツ健康学演習Ⅱ [平野 裕一] 秋学期授業/Fall	42
研究指導 【S9121】 スポーツ健康学演習Ⅱ [吉田 政幸] 秋学期授業/Fall	44
研究指導 【S9124】 スポーツ健康学演習Ⅱ [林 容市] 秋学期授業/Fall	45
研究指導 【S9211】 スポーツ健康学演習Ⅲ [泉 重樹] 春学期授業/Spring	46
研究指導 【S9212】 スポーツ健康学演習Ⅲ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	47
研究指導 【S9213】 スポーツ健康学演習Ⅲ [荻部 俊二] 春学期授業/Spring	48
研究指導 【S9220】 スポーツ健康学演習Ⅲ [山本 浩] 春学期授業/Spring	49
研究指導 【S9221】 スポーツ健康学演習Ⅲ [吉田 政幸] 春学期授業/Spring	50
研究指導 【S9223】 スポーツ健康学演習Ⅲ [中澤 史] 春学期授業/Spring	51

研究指導	【S9225】	スポーツ健康学演習Ⅲ	[瀬戸 宏明]	春学期授業/Spring	52
研究指導	【S9311】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[泉 重樹]	秋学期授業/Fall	52
研究指導	【S9312】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[井上 尊寛]	秋学期授業/Fall	53
研究指導	【S9313】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[苅部 俊二]	秋学期授業/Fall	54
研究指導	【S9320】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[山本 浩]	秋学期授業/Fall	55
研究指導	【S9321】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[吉田 政幸]	秋学期授業/Fall	56
研究指導	【S9323】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[中澤 史]	秋学期授業/Fall	57
研究指導	【S9325】	スポーツ健康学演習Ⅳ	[瀬戸 宏明]	秋学期授業/Fall	58

HSS50011

研究デザイン・フィロソフィー

井上 尊寛、泉 重樹、山本 浩、安藤 正志、木下 訓光、永木 耕介、瀬戸 宏明、Nemes Roland、平野 裕一、吉田 政幸、鬼頭 英明、伊藤 真紀、苅部 俊二、高見 京太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を研究するためには、倫理面をはじめとする基礎的で幅広い知識と技能、およびそれらを計画立てて使う方法を知ることが必要となる。そのため、本授業では、複数の専任教員が各々独自の視点から研究の在り方（フィロソフィー）と設計の仕方（デザイン）について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようになることを目的とする。

【到達目標】

受講生が、スポーツ健康学を構成するヘルス系、コーチング系、マネジメント系の各領域における研究の在り方および計画の立て方を知り、自身の研究の基礎として役立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、スポーツ健康学研究科の複数の専任教員が担当する。各教員は自身の専門分野を切り口に、研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	大学院での研究と学び スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・体育科教育）	修士論文を作成するにあたっての心構えと、2 年間の研究活動を通して身につけるべき研究の方法と考え方について理解する。また、スポーツ健康学分野の特に体育科教育に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。（永木耕介・1回）
2 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・健康体力づくり）	スポーツ健康学分野の特に健康体力づくりに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（高見京太・1回）
3 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツプロモーション）	スポーツ健康学分野の特にスポーツプロモーションに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（伊藤真紀・1回）
4 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・学校保健）	スポーツ健康学分野の特に保健科教育に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（鬼頭英明・1回）
5 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・リハビリテーション）	スポーツ健康学分野の特にリハビリテーションに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（安藤正志・1回）

6 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・リハビリテーション）	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・アスレティックトレーニング） スポーツ健康学分野の特にアスレティックトレーニングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（泉重樹・1回）
7 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	研究倫理面をはじめスポーツ健康学分野の外科スポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。（瀬戸宏明・1回）。
8 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマーケティング）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマーケティングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（井上尊寛・1回）
9 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	スポーツ健康学分野で研究を行う上で必須の研究倫理について理解する（木下訓光・1回）。
10 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・競技力向上）	スポーツ健康学分野の特に競技力向上に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（ネメシュ・ローランド・1回）
11 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツメディア）	スポーツ健康学分野の特にスポーツメディアに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（山本浩・1回）
12 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・コーチング）	スポーツ健康学分野の特にコーチングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（苅部俊二・1回）
13 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマネジメント）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマネジメントに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（吉田政幸・1回）
14 回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・バイオメカニクス）	スポーツ健康学分野の特にバイオメカニクスに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（平野裕一・1回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。授業時間外でレポート作成を要する場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価して 0 点から 7 点で採点する（7 点×14 回＝98 点満点）。98 点を 100 点に補正して A+ から D の評価をする。
なお、2/3 以上の出席がない場合は評価の対象外とする（E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き有意義な講義を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

特になし

発行日：2020/5/1

[Outline and objectives]

For Sport and Health Studies, teachers are required to have the fundamental knowledge and practical skills of the course as well as sound study ethics. Through the unique lectures of our various professors, this class aims to provide students with knowledge of underlying philosophy and insight into the design of study plans.

HSS500I1

スポーツ健康学特論 I (心身科学)

山田 快

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域における「心」と「身体」との関係性について理解を深めていきます。

【到達目標】

スポーツ健康学の理解を深める上で重要な心身科学に関する基礎知識を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

心と身体に関わる知見や事例について学んでいきます。とりわけ、受講者同士で心身科学に関わる内容を取り上げたプレゼンテーションを行い、ディスカッションすることを通して、スポーツ健康学の理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的をはじめとする概要を伝達し、クラス内で共通理解を図る。
第 2 回	他者との関係構築	グループワークを通じて、メンバーを知り、関係をつくる。
第 3 回	心身のつながりをめぐる研究史	スポーツ心理学を中心としたスポーツ健康学に関わる研究史の概要について学ぶ。
第 4 回	心身のつながりを体験する①	身体活動を通して、心と身体の間を体験的に学ぶ。
第 5 回	パーソナリティ	行動を特徴づける心の要因について学び、心身科学の理解を深める。
第 6 回	メンタルヘルス	心の健康について学び、心身科学の理解を深める。
第 7 回	モチベーション	動機づけについて学び、心身科学の理解を深める。
第 8 回	集団のまとまり	他者とのつながりや相互作用について学び、心身科学の理解を深める。
第 9 回	心身のつながりを体験する②	スポーツを通して、心と身体の間を体験的に学ぶ。
第 10 回	心身のつながりを究明する方法	スポーツ健康学で汎用されている基礎的な分析方法について学ぶ。
第 11 回	心理的パフォーマンス	パフォーマンスに影響を及ぼす心の要因について学び、心身科学の理解を深める。
第 12 回	コーチング	コーチングについて学び、心身科学の理解を深める。
第 13 回	スポーツにおける心身のサポート	アスリートやスポーツチームに対する支援策について学び、心身科学の理解を深める。
第 14 回	総括	これまでの取り組みを振り返り、今後の研究活動を見据える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業の内容をレビューすることに加え、各自が取り扱っている研究テーマに関連する、あるいは研究の推進に役立ちそうな知見や最新のトピックスに積極的に触れるよう心がけて下さい。本授業の準備や復習に関わる学習時間は、各々 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料を配布したり、文献を紹介します。

【参考書】

中澤 史 (2016) アスリートの心理学, 日本文化出版

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を観点として、総合的に評価します。

①授業への参画姿勢：50%

②プレゼンテーションをはじめとする課題：50%

毎時の参加を前提に、積極的に学習した内容をアウトプットし、受講者同士でディスカッションして下さい。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が担当の初年度となりますので、受講者と積極的にコミュニケーションを図り、ともに方向性を検討しながら進めていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、受講者の特徴によって変更する場合がありますので、予めご了承下さい。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the relationship between mind and body in the field of sport and health studies.

HSS50011

スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下 訓光、瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】5月7日(木)5限

授業の前半はスポーツ医学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。後半はスポーツ医学領域の先端的知見・研究成果について学習しつつ、修士論文作成に必要な学術論文の構造 (literature review, statement of problem, research question (s), hypothesis, delimitation, limitation) について学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜
2 回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3 回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4 回	医学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ2乗検定、2群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5 回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6 回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム (免疫系) の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B細胞、T細胞、サイトカイン、炎症
7 回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックとして、運動介入 (短期的・長期的) と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿

8 回	生体エネルギー論 【担当：木下】	ヒトの動きのメカニズムを分子・細胞レベルから理解し、生体におけるエネルギーの発生機序・消費効率の観点からスポーツパフォーマンスを分析する。 【keyword】 ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、酸素消費、エネルギー消費、運動効率、競技パフォーマンス
9 回	エリートアスリートの生理学的評価 【担当：木下】	スポーツパフォーマンス (特に持久系) を評価する重要な生理学的指標について、定義・方法論・意義について学ぶ。 【keyword】 最大酸素摂取量、クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10 回	身体組成の医科学 【担当：木下】	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11 回	エネルギー代謝と疾病・健康・パフォーマンス 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、肥満、減量の機序などの臨床的応用について学習する。 【keyword】 肥満、基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリーメーター
12 回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	スポーツ栄養の話題 (いわゆるサブリーメントの効果の真偽や、競技力向上における三大栄養素の役割など) に関して、最新のエビデンスに基づき学習する。また不十分な栄養摂取に関連して発生する臨床的問題についても学習する。 【keyword】 エルゴジェニックエイド、Low energy availability、貧血
13 回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義・パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック
14 回	身体活動量の医科学 【担当：木下】	身体活動の臨床的意義について理解し、運動を医療に活用するための理論的背景・手法について学習する。 【keyword】 身体活動量、運動疫学、生活習慣病、予防医学、運動療法

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前半の授業 (瀬戸担当部分) では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。後半の授業 (木下担当部分) においては、指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

シンプル生化学【改訂第6版】、監修：林典夫・廣野治子、南江堂、2014年
“Exercise Physiology (10th Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2017. ※研究室収蔵

各回のテーマに応じて必要な文献を適宜提示する。
【後半の授業 (木下担当部分)】 テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半 (瀬戸担当部分) においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容をS～Dまで評定し、これを点数化して平均したものを前半 (瀬戸担当部分) の点数とする。後半 (木下担当部分) においては、以下の通りである。授業内で課題を課す場合がある。関連してレポート作成を求める場合がある。また授業内で試験を行う場合がある。試験を行う場合は筆記試験または口頭試験で行う。課題の達成度、レポートの内容、試験の結果などを総合評価して点数化し、後半 (木下担当部分) の点数とする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師 (日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医) が授業を行う。各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかなければ学修目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.

HSS500I1

スポーツ健康学特論Ⅲ (人文社会科学)

石井 隆憲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「体育・スポーツ科学」における人文社会科学諸分野の研究を取り上げ、これを紹介しながらそれぞれの研究領域における研究の視点と方法論について解説を行います。また、質的調査方法や資料の取り扱いについても具体的な事例を紹介しながら理解を深めてもらいます。

【到達目標】

人文社会科学諸分野の研究方法の概略や研究の視点が理解できるとともに、それらの方法論を用いた研究論文を読み込み、理解していくことのできる力を身に付けていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の前半部では、体育・スポーツ科学における人文社会科学諸分野の研究の視点や方法論を理解するための講義を中心に進めます。後半部では実際に関連論文を読み込み、討論をおこなっていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	担当教員の紹介、この授業の到達目標、評価方法を説明する。
2 回	人文社会科学の視点①	スポーツを対象とする歴史学的、社会学的、人類学的な研究視点の違いを概説する。
3 回	人文社会科学の視点②	歴史人類学的視点に基づいて、近代医療の世界化によって医療や健康について一元化していく状況を「帝国医療のグローバル化」として解説し、討論する。
4 回	人文社会科学の視点③	社会学的な視点として、ピエール・ブルデューのハビトゥス論に基づき、「社会的身体の構築」について解説し、討論する。
5 回	人文社会科学の視点④	文化人類学的視点に基づき、ミャンマーの伝統スポーツを取り上げ、当該社会とスポーツの関係性を解説し、討論する。
6 回	人文社会科学の視点⑤	文化人類学的視点に基づき、ベトナムに伝播した日本の空手が、その後、ベトナム国内で変容する過程を通してスポーツに与える文化の影響を解説する。
7 回	人文社会科学の視点⑥	社会科学的な視点からスポーツのグローバル化という現象について解説し、討論する。
8 回	人文社会科学の視点⑦	スポーツを通した異文化理解と異文化教育について、具体的な事例をあげながら解説し、討論する。
9 回	研究の方法論①（論文の輪読）	具体的な事例を基にして定量的な調査方法と定性的な調査方法の違いについて解説する。
10 回	研究の方法論②（論文の輪読）	具体的な事例を基にしてフィールドワークならびに質的研究の方法について解説する。
11 回	研究の方法論③（論文の輪読）	具体的な事例を基にして歴史的な研究方法について解説する。
12 回	新しい研究の視点①	スポーツと国際開発：スポーツを用いた応用的な学問の在り方を解説する。
13 回	新しい研究の視点②	表象主義を超えて：身体化という新しい考え方とその取り組みについて解説する。また、ミャンマーの伝統スポーツであるチンロンを体験してもらい、この体験の経験を学問につなげる考え方を紹介する。
14 回	まとめ	体育・スポーツ科学における人文社会科学分野の視点や研究方法の整理し、今後の研究方向について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に関連する資料などはポータル上にアップします。また、復習についてもポータル上で補助的に資料を提示するので確認し、必要に応じて課題の提出をしてもらうことになります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎週、次の授業で使う論文などを事前に配布します。また、ポータル上にアップロードするので、必要に応じてダウンロードしてください。

【参考書】

特に指定しませんが、毎回の授業内で関連書物を随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート(50%)に加え、配布するレジュメの内容に関する質問や議論への積極的参加(30%)、また出席票に対する出席者からの回答の出来栄(20%)を勘案して総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

全ての学生が人文社会科学の研究に興味関心を持ってもらえるように、スポーツ科学の研究領域についても概観したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

討論にあたっては、受講生の皆さんの意見や発言を多く求めることになりませぬ。自分の考えを積極的に発言してください。また、多様なものの見方や考え方のあることを受け入れてもらえる姿勢を望んでいます。

【Outline and objectives】

In this class, we take up the research in the fields of humanities and social science in the "Physical education and sports science" and explain the viewpoints and methodology of the research in each research area while introducing the research. We will also provide specific examples of how to conduct qualitative surveys and how to handle materials in order to deepen their understanding.

SOM50011

公衆衛生学特論

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ヒトが抱える健康課題について科学的根拠に基づく背景要因の理解を通して、課題解決の方策を探る力を身に付けられるようにすることである。

【到達目標】

集団の疾病及び健康の保持増進の方策について理解し、生涯を通じての健康的なライフスタイルの形成に役立てることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「健康」、「保健統計」、「疾病とその予防」、「疫学」、「感染症」、「母子保健」、「産業保健」、「環境保健」について、歴史的経緯、マスメディアによってとりあげられる関連事項、実例や研究例を題材に取り上げ、興味・関心がもてるようにするとともに、講義だけでなく考え方や対処法等についてディスカッションにより掘り下げる。また、映像教材を積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	概論と歴史	公衆衛生学の歴史と学問領域の特性について概説
2 回	保健統計－人口統計－	保健統計のうち、人口ピラミッド、人口動態統計、人口動態統計及びデータの国際比較、国内の地域の実情、背景について概説
3 回	保健統計－死因統計－	死因統計とは何か、どのような意味をもつか解説するとともに、日本と諸外国との実態を比較し課題を探る。
4 回	保健統計－生命表－	生命表、平均余命及び平均寿命について概説
5 回	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念について概説
6 回	生活習慣病とその予防	悪性新生物、心疾患など生活習慣がもたらす疾患について、予防方法も含めて解説
7 回	感染症	感染症とは何か、問題点及び法律上の対応について概説
8 回	感染症の予防	感染症の予防方法及び予防接種について解説
9 回	疫学 考え方	疫学の考え方について過去の事例をもとに解説
10 回	疫学－コホート研究－	疫学研究の代表的な方法であるコホート研究について事例を紹介しながら、利点、欠点も交えて解説
11 回	疫学－症例対照研究－	疫学研究のうち症例－対照研究について事例をもとに利点、欠点も交えて解説
12 回	母子保健	母子の健康状態の尺度となる健康指標及び法律上の対応、行政の取組について解説
13 回	産業保健	労働衛生の実態及び産業保健活動について解説
14 回	環境保健	公害、環境衛生及び環境保健活動について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に公衆衛生に関する新聞記事や行政機関の動向、発信された情報に関心をもち、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テーマ毎に資料を配付する。

【参考書】

国民衛生の動向

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %、試験 80 % で評価し、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

the purpose of this course is for students to deepen the understanding of public health, and find solutions to a challenge.

HSS500I1

健康体力学特論

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、さらに学校体育に関連した体力学の基礎的知識を学習する。健康やスポーツに対し、様々な視点からみた体力の諸要素がどのように関連し、貢献するのかについて学び、理論を実践場面へ適用できる能力を習得する。

【到達目標】

- ①体力に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②健康やスポーツに関わる主たる体力要素について、理論と測定法を習得する。
- ③体育科教育等の様々な場面における体力の定量的評価法およびその解釈について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生涯にわたる健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関する概念や理論を理解した上で、特に健康やスポーツ・身体活動に重要な体力要素を紹介していきます。また、実際の測定方法や評価方法についてもその手法を解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、一方向的な知識提供の場になることを避けるため、授業内容に対しての受講者全体での討論や個別に課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	運動・体力の発達	体力の基礎的概念と共に、身体の発育発達や加齢に応じた各体力要素の変化について理解する。
2 回	健康関連体力：全身持久性体力の概念	健康関連体力の一つである全身持久性体力の概念と、呼吸・循環・代謝などの関連する生理学的バックグラウンドを理解する。
3 回	健康関連体力：全身持久性体力の測定指標と理解	全身持久性体力の直接測定法および推定法を学び、種々の評価法を習得する。
4 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の概念	健康関連体力の一つである筋力・筋持久力の概念と生理学的バックグラウンドを理解する。
5 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の測定指標と理解	筋力・筋持久力の主たる測定法を学び、種々の評価法を習得する。
6 回	健康関連体力：柔軟性の概念	健康関連体力の一つである柔軟性の概念と生理学的・解剖学的バックグラウンドを理解し、評価法を習得する。
7 回	健康関連体力：身体組成の概念	健康関連体力の一つである身体組成の概念と生理・生化学的バックグラウンドを理解する。
8 回	健康関連体力：身体組成の測定指標と理解	身体組成を測定する種々の測定法における測定（推定）原理を理解し、評価法を習得する。
9 回	サイバネティクスの体力：調整力	身体を自在に操作するために必要な調整力について、その概念と神経生理学的なバックグラウンド、および測定・評価法を理解する。
10 回	サイバネティクスの体力：敏捷性・巧緻性	身体を自在に操作するために必要な敏捷性・巧緻性について概念と神経生理学的なバックグラウンド、高齢者における特徴などを学び、その測定・評価法を理解する。
11 回	パフォーマンスに関連する体力の定量化	各年代のスポーツ実践場面で特異的に必要となる種々の体力要素について、その具体的な測定・評価方法を習得する。
12 回	体育科教育における体力の評価とその基準	学校体育における体力測定・調査を実施する際の具体的な手順・方法および留意点について学習する。
13 回	測定結果の分析・データマイニング	体力測定結果を目的に応じて分析するための主たる方法を学習し、データから新たな体力学的知見を抽出するための手法を理解する。

14 回 体力学における課題と展開 現在の体力学・体力測定における課題を学び、それを解決するために今後、体力学分野において展開が期待される研究内容について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示された課題の内容に基づいて授業中に頻繁に発言を求めます。課題は授業内で提示しますが、次回までに必ず予習して来てください。また、数回のプレゼンテーションを求める予定ですので、授業内で指示される準備も必ず実施してくるようになしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業への参画（討論への参画）状況：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

前年度休講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This class has two objectives of learning. The first is to learn fundamental theories about physical fitness and the physical functions related to health, sports, a physical activity, and a school physical education. The second is to learn how various physical strength elements relate to health and sports and how they contribute and to acquire the ability to apply theories to practice.

HSS50011

健康心理学特論

飯田 麻紗子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体的・心理的・社会的健康に対する心理学的アプローチを学ぶことをテーマとします。

【到達目標】

個人・集団を対象として、学校・地域・職域・医療場面におけるヘルスプロモーションの実際を理解することを目標とします。最終的には、受講生自らが、わが国の健康政策に対して、心理学がどのように貢献するか？ について、具体的な提案をできるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ、学校、地域、職域、医療場面における健康行動を扱います。身体活動・運動行動、食事行動、睡眠、ストレスマネジメント行動、リスク行動、および、感染症予防行動などの健康行動がもたらす心理学的効果と、それらの実施を促進する心理学的手法について学びます。さらに、わが国の健康政策に対して、心理学がどのように貢献するか？ についても、受講生間の対話を通じて理解を深めます。

少なくとも春学期前半はオンライン授業とし、本授業の開始日は、4 月 30 日とします。なお、初回（4 月 30 日）は、オンライン授業の具体的な実施方法、成績評価等について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	健康心理学とは何か？ を学ぶ	健康心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
2 回	ストレスマネジメントを学ぶ	ストレスマネジメントに関連する健康心理学的アプローチの手法を理解し、活用できるようになる。
3 回	スポーツ選手の健康問題を学ぶ（1）	スポーツ選手の健康問題（スポーツ傷害）を理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
4 回	スポーツ選手の健康問題を学ぶ（2）	スポーツ選手の健康問題（うつなどの心理的ストレス）を理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
5 回	スポーツ選手の健康問題を学ぶ（3）	スポーツ選手の健康問題（食行動異常や月経異常）を理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
6 回	スポーツ選手の健康問題を学ぶ（4）	スポーツ選手の健康問題（依存行動）を理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
7 回	障がい者の健康問題を学ぶ（1）	障がいある人の健康問題をスポーツ科学・健康科学の観点から理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
8 回	障がい者の健康問題を学ぶ（2）	障がいある人の健康問題について個別事例を通して理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
9 回	ソーシャルマーケティングを学ぶ	マーケティングの手法をヘルスプロモーションのフィールドに活かす方法を理解し、実践できるようになる。
10 回	ヘルスコミュニケーションを学ぶ	ヘルスコミュニケーションの手法をヘルスプロモーションのフィールドに活かす方法を理解し、実践できるようになる。
11 回	学校・地域におけるヘルスプロモーションを学ぶ	学校・地域において求められているヘルスプロモーションを理解し、具体的に説明できるようになる。
12 回	職域・医療場面におけるヘルスプロモーションを学ぶ	職域・医療場面において求められているヘルスプロモーションを理解し、具体的に説明できるようになる。

13 回	リスク行動予防・感染症予防のアプローチを学ぶ	喫煙、飲酒、コンドーム使用、マスク着用、予防接種に関連する健康心理学的アプローチの手法を理解し、活用できるようになる。
14 回	自らの研究テーマと健康心理学との接点を考える	自らの研究テーマと健康心理学との接点を理解し、説明できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らのフィールドにおいて、健康心理学的なアプローチの手法を実践することに関するレポートを課しますので、実施してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

金政祐司・大竹恵子（編著）「健康と暮らしに役立つ心理学」北樹出版

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「先生の講義もわかりやすく、院生とのディスカッションも多くとても楽しい内容であった」との回答がありました。これからも、できるだけ意見交換の時間を取りながら、授業を行えるようにと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline and objectives】

To learn the psychological approach to physical, psychological, and social health.

HSS500I1

スポーツ栄養学特論

小清水 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【Outline and objectives】

This course introduces the key principle of sports nutrition for elite athletes and recreational exercisers. It will cover sports nutrition for pre, during and post exercise considering various sports and body composition.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ選手を対象として、コンディション維持・調整と体づくりのために必要な栄養学の知識と科学的理論を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ栄養に関する基礎的知識と科学的理論を習得し、それらをスポーツ現場での栄養サポートに活用・実践できる能力を備えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ栄養学に関する最新の文献や事例に基づき講義と議論を深めていく。また、スポーツ現場で栄養指導を実践していくうえでの課題点についても議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	エネルギー消費量の評価とバランス	スポーツ選手のエネルギー消費量の考え方の特徴と測定方法。消費エネルギー量の推定式。
2 回	スポーツ選手の身体組成	スポーツ選手の身体組成の測定方法・データの解釈、およびパフォーマンスとの関係。
3 回	運動時のエネルギー補給	トレーニング状況に応じた栄養補給方法。糖質補給の必要性と摂取タイミング。
4 回	スポーツ選手の体づくりとたんぱく質	スポーツ選手のからだづくりに必要なたんぱく質の摂取量、摂取方法。
5 回	ビタミンとミネラル	各種ビタミン・ミネラルの働きとコンディション維持との関連、摂取量。
6 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（1）	増量時の食事管理。
7 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（2）	減量時の食事管理。
8 回	スポーツ選手に多い栄養障害	鉄欠乏性貧血、相対的なエネルギー不足、女性アスリートの三主徴。
9 回	ジュニアスポーツ選手の栄養管理	ジュニアスポーツ選手の食事の考え方。
10 回	水分補給	運動時の水分補給の意義と方法
11 回	サプリメントとアンチドーピング	サプリメント摂取に関するスポーツ選手への教育、ドーピングとの関連。
12 回	試合前後の食事、遠征時の食事	試合スケジュールに応じた食事調整。遠征時の食環境の整え方
13 回	スポーツ選手の栄養アセスメント	栄養アセスメント項目と方法。
14 回	スポーツ選手の栄養管理計画作成	これまでの授業内容を基にスポーツ選手の栄養サポート計画を立案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で講義する内容に関して、あらかじめ配布資料等を読んで、自分の考えをまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

適宜資料、プリントを配布する。

【参考書】

Louise Burke & Vicki Deakin: Clinical Sports Nutrition 5th edition (McGraw Hill)

日本スポーツ栄養学会監修：エッセンシャルスポーツ栄養学（市村出版）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・議論への参加状況 40 %、期末に提出するレポート 60 %で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、スポーツ現場での栄養サポートの問題点などの事例を取り入れ、実践で活用できる内容の授業としていく。

【その他の重要事項】

特になし

SOM5001I

運動器疾患特論

安藤 正志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

筋肉や関節（スポーツ傷害も含む）傷害と予防について学びます。筋骨格系障害の発生のメカニズムおよび予防とリハビリテーションを理解する。また、痛みの対処法や個々の筋肉をストレッチする方法を体験する。

【到達目標】

この授業を学ぶことで以下のことを理解できます。
 スポーツ傷害を予防する方法
 運動器疾患発生のメカニズム（なぜその関節に傷害が発生するか）
 関節部位の機能解剖と触診（どの筋が収縮すると関節が動くのか）
 肩関節の障害はどのように診るべきか
 肘、手関節の障害はどのように診るべきか
 股関節の障害はどのように診るべきか
 膝、足部障害の診方
 各関節に発生する障害を予防するためには
 傷害が発生した場合、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）をどのように進めるべきか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがバイブルにしているカバンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	徒手医学による運動器疾患の機能診断と治療	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。
2 回	肩関節障害の徒手機能診断と治療	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
3 回	肘関節障害の徒手機能診断と治療	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
4 回	手、手指関節障害の徒手機能診断と治療	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
5 回	股関節障害の徒手機能診断と治療	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
6 回	膝関節障害の徒手機能診断と治療	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7 回	足、足部関節障害の徒手機能診断と治療	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
8 回	骨盤障害の徒手機能診断と治療	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
9 回	腰椎障害の徒手機能診断と治療（時に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）
10 回	腰椎障害の徒手機能診断と治療（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）

11 回	中下部頸椎障害の徒手機能診断と治療	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
12 回	上部頸椎障害の徒手機能診断と治療	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
13 回	顎関節障害の徒手機能診断と治療	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
14 回	胸郭障害の徒手機能診断と治療 その他の部位の徒手機能診断と治療	胸郭の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。その他の部位障害（肋骨など）の機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学を修得しておく必要がある）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

からだの構造と機能 I、II ・ カバンディ機能解剖学 I、II、III
標準徒手医学入門編

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数であったので課題の割り振りが毎回のようであった。課題発表と講義のバランスを考慮しながら進めたい。

【その他の重要事項】

学部で機能解剖学あるいは運動学と解剖学を履修しておくこと

【Outline and objectives】

Learn about muscle and joint disorders.

Understand the mechanism of occurrence of musculoskeletal disorder and how to prevent and treat.

Also experience functional diagnosis and treatment (using manual therapy techniques).

SOM5001I

学校保健学特論

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、学校保健の理解を深め、子どもの健康課題解決の方策を提案できる能力を身に付けることである。

学校保健の領域を構成する保健管理、保健教育について基本的な知識を身に付けるとともに、課題解決のために考えられる方策について議論を深めながら理解を深め、実践力が身に付けられるようにする。

【到達目標】

学校保健の全体構造及び児童生徒の健康に係る課題の理解を通して、その重要性が認識できるようにするとともに教員等が果たす役割について身に付け、学校保健に関する実践力を身に付けることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「学校保健の歴史」、「学校保健の領域構造」、「関連する法律」を基礎とし、学校保健に関わる人的配置が「保健主事」「養護教諭」「学校三師」であること、その上で「学校保健活動」が実施されていること、さらには学校保健の中核となる領域は「保健教育」と「保健管理」であり、児童生徒の現代的な健康課題に対応するためには、その理解と効果的な教育や管理が必要であることについて、全体を通じて有機的なつながりを意識しながら進めていく。実態や実践事例を題材とし、ディスカッションを通じて理解を深める。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月13日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	学校保健の概要	学校保健の概要について保健教育、保健管理の各視点から解説。
2 回	学校保健の歴史	学校保健が歩んできたこれまでの歴史的経緯について解説。
3 回	学校保健の領域構造	学校保健の領域を構成する、保健教育、保健管理、組織活動についてそれぞれの意義を解説。
4 回	関連する法律 －学校保健安全法を中心として－	学校保健の法的根拠となる学校保健安全法を中心に内容について詳説。
5 回	保健主事と養護教諭	学校保健の中心的役割を担う保健主事及び養護教諭についてその職務内容を解説。
6 回	学校三師とは	学校保健を側面から支援する学校医、学校歯科医、学校薬剤師についてその役割を解説。
7 回	学校保健活動	学校保健活動とは何か、学校と家庭や地域をつなぐ連携の在り方について解説。
8 回	保健教育	保健教育を構成する保健学習、保健指導について解説。
9 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －喫煙、飲酒－	児童生徒の現代的な健康課題について喫煙、飲酒を中心に取り上げ解説。
10 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －薬物乱用、性の逸脱行動－	児童生徒の現代的な健康課題について薬物乱用、性の逸脱行動を中心に取り上げ解説。
11 回	保健管理の概要	保健管理の概要について解説。
12 回	健康診断	保健管理のうち、対人管理として重要な健康診断の内容について解説。
13 回	学校環境衛生総論	保健管理のうち、対物管理として学校環境衛生を取り上げ解説。
14 回	学校環境衛生各論	学校環境衛生基準を題材とし、教室環境、飲料水、プール等、学校環境衛生について各論として取り上げ解説。実験演習を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童生徒や学生に関わる健康課題、問題行動について関心をもち、マスメディアが発信する情報や文部科学省から発信される情報を収集し、問題点や動向について認識を深めることにより、問題意識を高めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じた資料を作成し配布

【参考書】

改訂 8 版学校保健マニュアル（南山堂）、学校保健実務必携（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまなない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this course is for students to deepen the understanding of school health, and make proposals to find solutions to challenge.

HSS50011

体力・機能測定評価演習

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康とスポーツ・身体活動、学校体育に関連した体力およびそれに関する諸機能について、概念と基礎的理論を学習する。身体活動に関連する体力や身体諸機能を適切に測定し、評価しうる能力を習得する。

【到達目標】

体力・身体機能に関わる一般的概念・構成を理解する。②種々の体力要素について、理論と具体的な測定・評価法を習得する。③種々の体力要素の測定結果を、様々な場面に適用できる実践力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

身体活動を対象とした研究の実践時に重要な体力要素を取り上げ、その概念や具体的な測定方法を学ぶ演習を行います。また、実際の測定方法に加え、エビデンスに基づく評価方法について解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、演習における活動に加え、受講者全体での討論や課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 23 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	体力・身体活動研究における現状の理解	体力学、身体活動研究における現状や概念を理解し、測定・評価法の歴史を学ぶ。
2 回	サイバネティクスの体力：体性感覚の生理学的背景と概念	サイバネティクスの体力の優劣に影響を及ぼす体性感覚について、体力学的・生理学的側面から学習する。
3 回	サイバネティクスの体力：grading 能力測定の実際	調整力を構成する一因子である grading 能力について、その具体的な測定方法を学ぶ。
4 回	サイバネティクスの体力：関節角度測定の実際	調整力を構成する一因子である関節角の調整能力について、その具体的な測定方法を学ぶ。
5 回	サイバネティクスの体力：測定結果の分析と解釈	調整力の測定結果の分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
6 回	骨格筋活動：生理学的背景と測定法の理解	身体の中各骨格筋に関して、その収縮を司る神経系活動や収縮レベルに関与する生理学的背景について学習する。
7 回	骨格筋活動：筋電図計測の実際	骨格筋活動を間接的に把握する筋電図の計測方法を習得する。
8 回	骨格筋活動：筋電図の分析と解釈	計測された筋電図データの分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
9 回	エネルギー代謝：概念・生理学的背景	基礎代謝および運動時のエネルギー代謝について、生理学的側面から概念・測定原理を理解する。
10 回	エネルギー代謝：直接測定の理解	安静時および身体活動時における呼気ガス分析を用いたエネルギー代謝測定法を習得する。
11 回	エネルギー代謝：間接測定（推定）の実際	身体活動時のエネルギー代謝を簡易に推定する方法を習得する。
12 回	エネルギー代謝：測定結果の分析と解釈	測定されたエネルギー代謝の結果を用いた安静時代謝量の計算や、身体活動中の糖・脂質代謝の計算方法を習得する。
13 回	身体活動量・運動習慣：概念と調査法の理解	身体活動量の概念、運動習慣の定義などを学び、これらを測定する意義について学習する。
14 回	身体活動量・運動習慣：調査の実際と分析法の理解	身体活動量の測定結果、および運動習慣調査などの結果について、具体的な分析方法を習得する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5, 8, 12 回においては、各体力要素の測定法演習の結果を取りまとめる簡易レポートの提出を求めます。また、3, 4, 7, 10, 11, 14 回においては、授業内で測定したデータの取りまとめを授業時間外で行う必要があります。各授業における教員からの指示に従って、授業外学習を進めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業での演習の状況（討論への参画状況を含む）：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

なお、当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The learning objective of this class is to acquire the ability to accurately measure and evaluate physical fitness and physical functions related to physical activity.

SOM5001I

運動疫学演習

笹井 浩行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動疫学とはヒトにおける運動と健康の間に原因と結果の関係（因果関係）があるかどうかを明らかにする学問である。100 人の血圧を測定し、その中で血圧が高い 20 人を 2 群に分け、A 群には運動指導を、B 群には「おまじない」をして 1 週間後に血圧を測定すると両群とも平均血圧は（ほぼまちがいはなく）低下する。このような研究デザインだと運動指導だけでなく「おまじない」にも降圧効果があることになってしまう。本授業では、このようなヒトを対象としたスポーツと健康に関する研究のピットホール（落とし穴）を解説するとともに、科学的に正しい研究結果を生み出す研究デザインを紹介し、ヒト集団を対象に実施されたスポーツと健康に関する研究結果を適切に理解できる能力を養うとともに、研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【到達目標】

- ① 運動疫学に関する基本的な考え方、基本用語、基本統計を学ぶ。
- ② 運動疫学のみならずスポーツ科学全般に関する研究結果を適切に理解できる能力を養う。
- ③ 運動疫学研究の研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで作成した教材と数多くの先行研究や総説（叙述レビューおよび系統的レビュー）を通じて運動疫学研究の基本を理解するだけでなく、各テーマについて討議することによって理解を深める。また、研究結果を理解したり、研究を実施したりする場合に陥るピットホールの種類や危険性を具体例を通じて理解することにより、適切な研究デザインによって生み出された研究結果とはどのようなものであるかを理解する。さらに、講義や討議によって得られた知識を実習（グループワーク）を通じてしっかりと身に付ける。
※授業の開始日は 5 月 8 日（金）とします。ただし、その日に学生からの発表を予定していますので、その内容を Hoppii 上の連絡欄およびメールで通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	運動疫学の基本および考え方	ガイダンス・自己紹介（講師、学生）・疫学のイメージを確認・疫学の基本や考え方について解説
2 回	信頼性の高い健康情報とはどのような情報かを解説	信頼性の高い健康情報に関する解説と討議・ヘルスリテラシーに関連するピットホール（落とし穴）の紹介
3 回	科学的根拠に基づく医療（EBM）およびスポーツ科学（EBSS）	科学的根拠（エビデンス）について解説・EBM および EBSS の概要や基本的な考えを解説
4 回	疫学の基本用語・基本統計・ピットフォール（落とし穴）の紹介	疫学の基本用語を解説・基本統計の紹介・疫学研究におけるピットフォールの代表（選択バイアス、交絡等）を解説
5 回	記述疫学研究の概要紹介	記述疫学研究の概要を説明・記述疫学研究として国民健康・栄養調査や各種統計調査を紹介し解説
6 回	地域相関研究の概要紹介	地域相関研究の概要を説明・地域相関研究としてニホンサン研究や赤ワインと心臓病に関する研究等を紹介し解説
7 回	横断研究の読み方、やり方	横断研究の概要とピットフォールを紹介・横断研究の読み方や実施方法を解説
8 回	症例対照研究の読み方、やり方	症例対照研究の概要とピットフォールを紹介・症例対照研究の読み方や実施方法を解説
9 回	コホート研究の読み方、やり方	コホート研究の概要とピットフォールを紹介・コホート研究の読み方や実施方法を解説
10 回	ランダム化比較試験の読み方、やり方	ランダム化比較試験の概要とピットフォールを紹介・ランダム化比較試験の読み方や実施方法を解説
11 回	実習 オリエンテーション・研究疑問の検討	実習（授業で紹介した疫学研究手法を用いて研究疑問の解決に向けた研究デザインを構築）の進め方を説明。各自で研究疑問に関連する先行研究について文献調査。

12 回	実習 仮想研究デザインの立案	各グループごとに先行研究を参考にし、リサーチクエスチョンを解決するための仮想研究デザインを立案
13 回	実習 仮想研究デザインの発表準備	パワーポイントを用いて、各グループごとに立案した仮想研究デザインの紹介スライドを作成
14 回	仮想研究デザインの発表と授業の総括	各グループごとに立案した仮想研究デザインを学会形式で発表し、質疑応答を通じて運動疫学に対する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業前に、予習として授業テーマに関する事項をインターネット等を利用して確認しておくこと。各授業後には復習として授業で学んだ部分について参考図書を読んで内容を確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回、関連文献・関連総説・資料等を配布する。

【参考書】

- ・はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第 3 版）
- ・身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～
- ・医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的な発言や質問等の授業態度、グループワークに対する参加度や貢献度、グループワークで作成した仮想研究デザインの内容や発表態度、質疑応答内容により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラスサイズが小さいため、各受講生の研究内容や個別の要望を聞き、適宜修正しながら授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションができるよう、プレゼンソフトが入ったノート PC を毎回の授業で持参すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Physical activity epidemiology is an academic discipline that clarifies causal relationships between physical activity, sedentary lifestyle and various health outcomes. This course is aimed at fostering student's capability to understand research findings in this field and to propose a scientifically-sound research design among populations of your interests.

HSS500I1

スポーツマネジメント特論

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1~2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント領域では、スポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとみなす。この特論は特に組織行動論やスポーツマーケティング論などの観点から、スポーツマネジメントの論理と実践を総合的に学習することが目的である。

【到達目標】

1. スポーツマネジメントがビジネスマネジメントの一つとして登場し今日に至った歴史的背景を説明することができる。
2. スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理、ファイナンス）について理解し、その実践方法を説明することができる。
3. スポーツ施設の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は 4 月 27 日（月）とします。

スポーツマネジメントとは、スポーツの魅力を最大限に引き出すための組織的機能である。この機能を十分に発揮し、組織目標を達成するために、スポーツ組織は人材、資金、資源、情報を効果的に配分、管理しなければならない。本授業は、スポーツマネジメントの主要領域とそれに対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。受講者は事前に配布される資料を読み、各テーマについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツビジネスとは	スポーツのビジネス化が止まらない。その背景、現状について理解を深める。
2 回	スポーツマネジメントとは	ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、現状について理解を深める。
3 回	スポーツ産業とは	スポーツマネジメントの対象分野となるスポーツ産業の具体的な個別産業領域、それぞれの市場規模、これまでの発展の経緯、そして今後成長が期待できる産業について理解を深める。
4 回	スポーツ組織論：計画、組織化	スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。
5 回	スポーツ組織論：実行、評価	スポーツ組織論の中でも、所属メンバーの動機づけと事業評価について、マネジメント理論とともに学習する。
6 回	スポーツ消費者行動	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的变化を必要とする。ここではファンの誕生のメカニズムについて学習する。
7 回	スポーツマーケティング	多様化する消費者ニーズを充足するスポーツプロダクトの創造に向け、最新のサービス中心の論理を含めたスポーツマーケティングコンセプトについて議論を展開し、その理解を深める。
8 回	ブランドマネジメント	コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。
9 回	マーケティングミックス	スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングミックスと呼び、それぞれの要素の特徴について学習する。

10 回	スポーツスポンサーシップ	アスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。
11 回	スポーツ施設マネジメントの基礎	今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、IT テクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。
12 回	スポーツ施設マネジメントの今後：第二局面のスポーツ施設	2000 年以降、スポーツ「しか」見せない第一局面のスタジアムから、スポーツだけでなく多様なサービス「も」提供する第二局面のスタジアムへの転換が起こっている。こうした変化の背景を学習するとともに、第二局面のスタジアムが生み出す様々な効果について理解する。
13 回	スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシーと呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。
14 回	スポーツマネジメントのまとめ	現代社会におけるスポーツマネジメントの重要性を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配布される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第 6 版）。杏林書院：東京。
 伊澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。
 原田宗彦・小笠原悦子（2008）スポーツマネジメント（スポーツビジネス叢書）。大修館書店：東京。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

1. スポーツマーケティングに関するレポート（50 点）：50%

【評価基準】

50 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

40 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

30 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながら書いている。

20 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて書いている

10 点：指定の形式に沿って書いている

2. 授業を通して学習した内容に関する論述試験（25 点 × 2 問）：50%

【評価基準】（1 問 25 点満点）

25 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

20 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

15 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながら書いている。

5 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

現在のスポーツ界で起きているマネジメント関連の問題についても授業で取り上げ、皆で議論します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course considers sports as products and their projects and practices as sports businesses. This is an advanced study of sport management on the basis of sport management principles such as organizational behavior and sport marketing. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the sport management field.

ECN50011

スポーツ産業学特論

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

従来のスポーツ産業においては、用品産業、施設・空間産業、情報産業の3つの領域は独立し存在していた。しかしながら、近年スポーツ健康への関心の高まりや消費者のライフスタイルの多様化などを背景にスポーツ健康産業の市場が拡大し、それぞれの領域が密に接し、ついには交わるようになっていく。この複雑な産業構造や要素間の関係を理解し、スポーツその持つ価値を最大化し、かつ収益性を高めるということを踏まえつつ、スポーツそのものにダイナミズムを与えるスポーツ健康産業論を展開する。

【到達目標】

本講義では、スポーツ産業についての理解を深めることを目的としている。具体的にはスポーツを商品として捉えた場合の商品特性や多様化するスポーツサービス業についての構造的な理解と現代的な経営課題について学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

多様化するスポーツ産業について、消費者行動や商品開発、ブランディングなど経営戦略やマーケティングなどの視点から解説していく。今年度は学内での授業実施が可能になるまでの間、支援システムを活用した内容に変更します。開始は4月28日とします。尚、学内での授業実施が可能になった場合は講義形式でおこないます。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらいます。授業ではプロジェクターを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	受講ガイダンス	スポーツ産業の産業構造について解説するとともに、授業の狙い、進め方なども併せて説明する
2 回	スポーツ産業の産業構造	スポーツ産業の歴史と実態さらに抱えている問題について解説する
3 回	スポーツプロダクトとライフサイクル	スポーツを商品として捉え、その特性や商品としてのライフサイクルまたはマーケティングについて解説していく
4 回	スポーツサービス産業	スポーツサービス業の目的・形態について歴史的な推移と共に解説していく
5 回	スポーツとメディア産業	スポーツの産業化とメディアの関係およびメディア産業の発展について考察する
6 回	スポーツ用品産業	スポーツブランドのマーケティングやブランディングについて考察していく
7 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントとツーリズムの関係について解説していく
8 回	スポーツと地域	スポーツイベントやプロスポーツクラブが地域に与える影響について考察していく
9 回	フィットネスクラブのマネジメント	民間のフィットネスクラブについて歴史的な変遷や形態およびサービスの変遷について考察していく
10 回	公共スポーツ施設のマネジメント	公共スポーツ施設のマネジメントについて現代的な課題およびサービスについて解説していく
11 回	スポーツと CSR	CSR についての理解を深めるとともに、スポーツ組織における CSR について考察していく
12 回	スポーツとソーシャルインパクト	スポーツイベントが社会に与えている影響について考察するとともに、ソーシャルインパクトを創出する方法や意義について解説していく
13 回	メガスポートイベント①	オリンピックの近代化や商業化のプロセスを解説する
14 回	メガスポートイベント②	サッカーワールドカップの近代化や商業化のプロセスについて解説するとともに、FIFA の世界戦略やマーケティングについても解説していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（感想や理解度の確認のための小テストなど授業内に実施する提出物）(10%) や期末のレポートの内容 (90%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

受講者の要望に沿った内容も適宜盛り込んでいきたい

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

ECN50011

スポーツ健康政策学特論

海老島 均

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピックに代表されるエリートスポーツを推進させる政策、また一般市民を対象としたスポーツによる健康政策、一見異なるレベルにおけるスポーツ関連政策に、いかに連続性を見いだしていくのか？ 諸外国の実情および我が国の国家レベルまたは地方自治体レベルでの取り組みを踏まえながら議論を進めていく。受講生が、スポーツや健康をめぐる最新の動向、また各受講生の研究テーマを政策に関連づけることができることを目的とする。

【到達目標】

エリートスポーツ・競技スポーツ環境整備政策の特徴、健康政策の特徴を把握し、目指すべき方向性に向けての政策立案、選択をできるようにする。また両者の連続性、共存性に関する知識を深める。国内外のスポーツ健康政策の現状を理解し、その比較検討から、我が国の将来に向けてのスポーツ健康政策に関する戦略を受講生個々が提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

海外のスポーツ健康政策に関する調査事例を紹介するとともに、インターネット等を通して受講生個々が調査分析する機会を持つ。また我が国のスポーツ健康政策に関してはフィールドワークを行う機会を提供し、それぞれの調査結果をもとに議論を重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション：スポーツ健康政策の社会的背景	世界におけるスポーツ健康政策の現状と課題に関して紹介していく。講義の流れに関しても解説する。
2 回	我が国のスポーツ健康政策の経緯	我が国のスポーツ健康政策がどのような変遷を経てきたか、その歴史に関して理解を深める。
3 回	我が国のスポーツ政策の現状と課題	スポーツ振興基本計画、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法によって発展したこと、また課題について考える。
4 回	諸外国のスポーツ政策の分析①（イギリス、アイルランド）	我が国と同様に学校スポーツが盛んな両国のスポーツ政策戦略を学ぶ。
5 回	諸外国のスポーツ政策分析②（ドイツ、オランダ、フランス）	地域スポーツクラブがスポーツ実践の基盤となるヨーロッパのスポーツ大国の戦略について学ぶ。
6 回	諸外国のスポーツ政策分析③（オーストラリア、NZ）	学校スポーツと地域スポーツクラブが共存し、多様なスポーツ環境を作り出している両国の戦略を知る。
7 回	諸外国のスポーツ戦略分析④（アメリカ、カナダ）	プロ・スポーツ先進国である両国の大衆スポーツの実践促進に対するアプローチや戦略について学ぶ。
8 回	諸外国のスポーツ政策分析⑤（中国、韓国）	エリートスポーツプログラムが成功している両国のスポーツ政策の特徴と、その社会的背景について学ぶ。
9 回	オリンピックとスポーツ政策	過去のオリンピックにおいて、開催国のスポーツ政策の変化と開催後のスポーツ環境への影響について知る。
10 回	スポーツ健康政策と「新しい公共」	「新しい公共」の概念と理解とスポーツ政策や健康政策策定に与える影響について考える。
11 回	地方自治体とスポーツ健康政策	コミュニティの形成・発展とスポーツ健康政策の関係性に関して学ぶ（自治体の役割に着目して）。
12 回	NPO やボランティアのマネジメント	コミュニティ・スポーツの発展にNPO やボランティアの果たす役割について事例をもとに考える。
13 回	総合型地域スポーツクラブ構想について検証する	総合型地域スポーツクラブの成功事例、課題に関して学び、今後のスポーツ健康政策策定に向けて考える。
14 回	スポーツ健康政策の方向性とアクターについて	我が国の健康スポーツ政策の目指すべき方向性と、アクターの役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、次週に向けての課題図書を紹介または資料を配布する。それらを熟読し、テーマに関しての理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

【参考書】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の議論やリアクションペーパーの評価：50%

最終レポートの評価：50%

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の研究テーマに即した学びを深める機会をより一層提供できるように努力したい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The sport policy which promotes elite sport environment towards Olympic Games or the other international competitions and the sport policy which enhances health of ordinal people through sporting activities coexists in different ways dependent on the given countries' policies. These policies can be separated or be integrated. Is it possible to create the continuity? We discuss this issue with the related data and documents about various countries and various levels of sporting fields and daily lives.

SOC500I1

スポーツジャーナリズム特論

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピック・パラリンピック本番が近づくにつれ、スポーツ報道の量、範囲ともに広がりを大きくしている。それに伴って断片的知識は増えただろうが、それぞれを有機的に結びながらスポーツを考える姿勢が醸し出されたとは言いがたい。スポーツを取り巻く問題は絶えることなく、さまざまな形で現れてくる。それに対する社会の反応は一面的で皮相的なことも少なくない。講義では、目に触れるスポーツジャーナリズムの中に現代社会の変化を読み解き、報道の裏に隠れる構図を意識しながら、社会を背に成り立つスポーツ界の論理を深く検証する。

【到達目標】

スポーツにはいつの時代も、政治・経済・社会・外交などが何らかの影を落としてきた。そんな中で現代スポーツは、メディアの波に乗ってその価値を過去とは比べものにならないほど大きく膨張させている。

この講義の設定する目標は二つ。

- ① こうした環境下で伝えられるスポーツに関わる報道を、鋭く分析し、深く読み解く力を手にすること。高いレベルでのメディアリテラシーの獲得だ。
- ② 一方で、鋭い観察眼で説得力のある論調を文章化し、言葉で伝える能力を身につける。メディアの立場に立ったつもりで、持論の展開を具体的に実施する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ界に普遍的なテーマを設定し講義を進める。繰り返された出来事に焦点を当てることもあれば、ジャーナルな論点もある。スポーツ報道がどのように行われるのか。社会はどのようなアクションを見せるのか。それに向き合う私たちはどう理解すれば良いのか。過去の映像素材や報道情報を随時ひもときながら、①歴史に基づいた②法に従った③経済原則を考慮した分析を問う。リアクションペーパーの提出ないしプレゼンテーションを要請する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	スポーツジャーナリズムの特性と歴史。ジャーナリズムが近年問われてきた問題点を取り上げる。
2 回	東京オリンピック・パラリンピック検証①～期待と現実～	日本中を巻き込んだメガイイベントの事前・事後報道の比較検討。
3 回	東京オリンピック・パラリンピック検証②～敗者の伝え方～	期待に満ちたメガイイベントを失意のうちに終えたアスリートは、ジャーナリズムにどう処遇されたか。
4 回	テレビスポーツジャーナリズムの登場から現代へ	具体性と同時体験。テレビは、スポーツジャーナリズムを変化させる引き金となっただけでなく、スポーツそのものにも大きな磁力を働かせるようになった。
5 回	'64 東京五輪と世論	'64 東京大会はスポーツジャーナリズムが強い推進力をもらった大イベントだった。カラー放送が始まって、日本は東京への情報集を加速させる。
6 回	東西対決とドーピング	世界が注目するメダル争いは政治の世界を巻き込み、「勝つことのみが善」であると信じて突き進む勢力を生んだ。
7 回	アマチュアとプロフェッショナル	商業化はプロ化の促進に弾みを付けた。しかしプロ化を促したのは金だけではない。私たちの社会そのものがプロ化を進める条件を整備し始めていたのだ。
8 回	イノベーションがスポーツ報道を変える	カメラの機能・性能の向上、情報伝達手段の変化、再生装置の発達。技術革新はスポーツ報道を変えた。それは、スポーツの見方、競技の進め方にまで影響を及ぼしている。
9 回	プロサッカーと地域化	長らくスポーツといえばプロ野球。それは巨人に象徴される、全国民を味方にするチームづくり。Jリーグの発足はそこにくさびを打ち、新たに「地域」の視点を掘り起こした。

10 回	生涯スポーツという発想	健康とスポーツの結びつきは、共同体の再構築だけでなく、高齢者対策、少子化などと密接な関係がある。ところが各地に起こった総合型のクラブ経営は、必ずしも順調には行っていない。
11 回	野球界の隆盛、波乱と再興	日本のスポーツジャーナリズムで常に主役を張ってきたのは野球。興行としてだけではなく、教育
12 回	スポーツ界の女性と繰り返される人種差別	スポーツ界の男女同権への流れ。一方で繰り返されるスポーツ界の人種差別。男性一辺倒であったスポーツ社会の変遷をたどる。
13 回	暴力的指導と組織のコンプライアンス	後を絶たない暴力的な指導。団体の分裂や補助金の不正運用。ガバナンス、コンプライアンスが問われ続けるのはいったいなぜか。日本社会のスポーツ観を視野に入れながら、さまざまな報道を分析する。
14 回	スポーツジャーナリズムの今とこれから（小論文課題）	オリパラ開催まで 1 年を切った段階で、スポーツジャーナリズムにどんな波乱が生まれているか。特論を総括する課題を向き合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツニュースに敏感になると同時に、政治・経済・社会の出来事に常にアンテナを張っておく。社会を揺るがすスポーツ界の問題には、自分なりのメモを書きためておく。SNS の力が強い現代社会で、この真偽を自ら確かめようとする姿勢を大切に、大衆の支持する世界観に自分も与ってしまかきどうか、厳しく問い詰めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず。

新聞、テレビ、インターネットの報道を随時利用。

【参考書】

月刊「ジャーナリズム」（朝日新聞社）
隔月刊「調査情報」TBSメディア総合研究所
新聞各紙のコラムや社説、論評

【成績評価の方法と基準】

スポーツ事象に対する切り込み方、伝える為の構成、スポーツ世界観の広さを、随時要求する小論やプレゼンテーションに見る（50%）

13 回の講義で受講者から提示されるものに、それぞれに満点が 4 点を付与（合計すると理想的には 52 点となるはず）

最終講義の中の一部を使って行う小論文（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講意欲が高いため、より新しいテーマを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参のこと。貸与パソコンが必要な場合は、担当教員に宛ててあらかじめ申請を求めたい。

【その他の重要事項】

フィールドワーク（なし）としているが、訪問先に可能性があれば受講生と相談の上実施することもあり得る。

【Outline and objectives】

The closer the Olympic and Paralympic Games 2020 draw, the greater the amount and scope of sporting articles we get. Thus, the knowledge of the fragments increased accordingly, but it can hardly be said that the attitude of thinking sports was organically produced. The problems around the sport constantly appear in different forms. The response of society to it is often one-sided and superficial. In the lecture, we will examine in detail the logic of the sports community that is developing behind society, being aware of the composition behind the report by reading the transformation of modern society in visible sports journalism.

SOC500I1

スポーツメディア特論

赤堀 宏幸、海老名 徳雪

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 1/Tue.1, 金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治、経済、文化事象を把握し、これらがスポーツとどう関連付けられるかを根本的な主題としたい。スポーツと政治の関係も追求し、メディアの根本原則も考える。

【到達目標】

オリンピックをはじめ、国際大会や国内プロリーグなどの取材を通して「スポーツとは何か」「スポーツの真実」「スポーツに可能なもの」などを探っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日を5月7日とする。内容はそれまでに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	新聞・通信のスポーツ取材のルール	新聞・通信各社がスポーツ取材をするときのルールや記者クラブシステム、プレスルームの運営、幹事社制度【担当：赤堀先生】
2 回	スポーツメディアとメディアスポーツ	アスリート、イベントがあつて、メディアが存在する一方で、メディアとスポーツイベントが共存共栄の図式もある【担当：赤堀先生】
3 回	オリンピックとマスメディア	オリンピックを報道するマスメディアと大会の規模、
4 回	メディアと競技種目、公開競技の関係	競技・開催の変遷【担当：赤堀先生】 オリンピックの競技種目、公開競技開催とメディアの関係（今昔）【担当：赤堀先生】
5 回	スーパーボウルとイングランドのプレミアリーグ	欧米のスポーツメディアとメジャースポーツの関係の大きさ【担当：赤堀先生】
6 回	イチロー、松井秀喜、松坂大輔と日本のスポーツメディア	メジャーリーグベースボール（MLB）にイチローが進んで以降の日本のスポーツメディアの変化【担当：赤堀先生】
7 回	日本国内、海外のスポーツ報道の速報性	スポーツの結果報道の新聞、電波という報形態から、より速報性で効果のあるネットメディアへの変遷【担当：赤堀先生】
8 回	電波のスポーツ報道史	ラジオから始まった電波のスポーツ報道は歴史が浅いが、驚くほどの成長を遂げた。中継技術の革新も日進月歩。【担当：海老名先生】
9 回	テレビのスポーツ支配① 放送権の威力	オリンピック、サッカーW杯等世界の巨大イベントは膨大な放送権に依存する。そのパワーを考える。【担当：海老名先生】
10 回	テレビのスポーツ支配② ルール変更の是非	相次ぐ競技ルールの変更は競技者、ファンの意に沿うものか、放送局側の要請優先か、種々のケースを検証する。【担当：海老名先生】
11 回	スポーツにおける人権	競技場内における人種差別、SNS利用のヘイトスピーチ。スポーツ報道は人権、倫理に関して最大限の配慮が求められる。【担当：海老名先生】
12 回	メディアのイベント主催	新聞社事業部の立案で始まったスポーツイベントは電波メディアの後押しなしには進まない時代が続く。「事業」と「ジャーナリズム」は並立出来るか。【担当：海老名先生】
13 回	進む国際化を考察する	プロリーグから学生スポーツまで、外国人の存在が当たり前の時代。島国ニッポンにおけるグローバリズムを考える。【担当：海老名先生】

14 回 スポーツメディアの課題と将来 ネット時代でスポーツジャーナリズムに大きな変化が見えてきた。先行きもきわめて不透明である。これからのスポーツ報道の姿を探る。【担当：海老名先生】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

複数のメディアを常時チェックし、とりわけ直前に迫った東京五輪関連の報道を注視する。加えてスポーツのみならず政治、経済等社会全般の動向や世論の変化を敏感にとらえておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、新聞、書物などを持参する場合がある。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

対面授業ができない想定で、レポートで評価する。課題は前半赤堀、後半海老名からそれぞれ提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

大きなトピック、世界を揺るがすスポーツ事象などは常に起こる可能性がある。それを勘案すれば、必ずしもシラバス通り、計画通りにいかない場合もある。

【Outline and objectives】

This course introduces the relationship of the sports and the economy the culture and especially the politics in the world. It also deals with what the mass media should be.

SOC50011

スポーツ組織構造特論

伊藤 真紀

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2 回	マネジメントとは1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3 回	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4 回	マネジメントとは3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5 回	組織とは スポーツの組織化、ビジネス化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する。
6 回	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。 組織コミットメント
7 回	スポーツ組織の経営環境と組織デザイン	スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について学習する。
8 回	スポーツ組織における組織開発	組織変革、組織開発、チームビルディングについて学習する。
9 回	スポーツ組織におけるリーダーシップ1	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ
10 回	スポーツ組織におけるモチベーション	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。 モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
11 回	人的資源管理政策・施策 職務満足と人事施策	人材マネジメント（HRM）の諸機能、戦略的人的資源管理（SHRM）職務満足について理解し、人事施策がいかに組織と個人に影響するか、人事管理プロセスを学習する。
12 回	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13 回	ケーススタディー1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。

14 回 プレゼンテーション スポーツ組織に置けるマネジメントに関する事例について各自で調査し、分析し、プレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社

Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）＋ケーススタディーレポート（40%）＋プレゼンテーション（40%）＝100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

SOC50011

スポーツ消費者行動特論

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動を説明するための理論を学習する。

【到達目標】

1. スポーツプロダクトの特性とそれを消費するスポーツ消費者について説明できる。
2. スポーツ消費者の意思決定過程を認知、魅力、愛着、忠誠の段階に分けて説明できる。
3. スポーツイベントにおける顧客満足的重要性を説明できる。
4. スポーツ消費者が形成する社会的アイデンティティについて説明できる。
5. スポーツブランドがスポーツ消費者に与える影響を説明できる。
6. スポーツ消費者とスポンサーの結びつきを強め、相互支援の関係を築く方法を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、スポーツをプロダクトとして捉え、それを参加または観戦などの形態によって消費する「スポーツ消費者の意思決定過程」について学習する。講義では、スポーツプロダクトを消費する際の認知的、感情的、行動的反応がどのように関係しているかという問題について理解を深める。学期の前半はスポーツ消費者のニーズの充足を通じた満足度や顧客ロイヤルティの向上を説明し、後半ではその概念的な焦点を社会的アイデンティティ、ブランド、スポーツ組織の社会的責任、コンシューマー・エクスペリエンス、スポンサーシップにまで広げ、これらのテーマにおけるスポーツ消費者行動について考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツプロダクトとスポーツ消費者	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
2 回	スポーツ消費者の動機因子	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
3 回	スポーツ関与	スポーツとの関わり方は人によって異なる。これをスポーツ関与と呼び、その強さはスポーツの (1) 重要性、(2) 娯楽性、(3) 記号性によって決定します。これらの 3 つの側面を通じてスポーツに関与すると、結果的に消費者行動がどのように変化するか理解を深める。
4 回	スポーツ消費者の意思決定過程：認知と魅力の段階	スポーツに興味・関心の低い者が、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）を認知し、やがてそれらに魅力を感じるようになる意思決定過程について学習する。
5 回	スポーツ消費者の意思決定過程：愛着と忠誠の段階	スポーツ参加者やスポーツ観戦者が熱心な愛好者やファンへと成長する過程において、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）が個人の自己概念の中にどのように取り込まれ、アイデンティティの形成に至るかを理解する。
6 回	スポーツイベントと顧客満足	時には「負け」を前提に事業を展開しなければならないスポーツビジネスにおいて何故顧客満足が重要なかを理解するとともに、スポーツイベントで提供されるサービス経験の質を高めることが顧客満足の向上につながることを理論的に学習する。

7 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者が特定のスポーツプロダクト、組織、イベントなどに継続的に愛顧心を頂き、それらと支援的な関わりを持つようになる現象を、顧客ロイヤルティの点から学ぶ。
8 回	スポーツ消費者とブランド	スポーツブランドにどのような付加価値が備わっているかを理解するとともに、それらの高め方と高めた結果期待できる競争優位性について学習する。
9 回	スポーツ組織の社会的責任とスポーツ消費者	成熟社会において人はより良く生きるためスポーツに対して個人的恩恵だけでなく、より社会的なレベルの効果を求めるようになる。そのような社会において、スポーツ組織が果たすべき社会的責任について考える。
10 回	スポーツ消費者の社会的アイデンティティ	スポーツ消費者は様々なスポーツ対象（特定種目、選手、チーム、リーグ、イベント、地域など）を社会的アイデンティティとして自己概念の中に取り込むことで自分が何者なのかを確認している。ここではスポーツを通じた社会的アイデンティティの形成について学びを深める。
11 回	ブランドコミュニティと集团的ロイヤルティ	特定のスポーツブランドに対して愛着を持つスポーツ参加者やスポーツ観戦者が仲間意識を抱き、消費者同士の心理的つながりが強化されることで観測される集団レベルの行動について学習する。
12 回	スポーツ消費者の向社会的行動	スポーツ界が果たすべき社会的責任は提供者側のスポーツ組織だけでなく、スポーツ経験の主体であるスポーツ消費者自身も担う必要がある。ここではスポーツ消費者の向社会的行動に焦点をあて学習する。
13 回	スポーツのエクスペリエンス・クオリティ	先行研究はスポーツプロダクトの品質をコアプロダクト・クオリティとサービス・クオリティの 2 つの側面から捉えてきたが、これらはどれも特定の消費経験の品質であり、消費前後のプロモーション活動や顧客維持活動の品質が含まれていない。スポーツ消費者の全体的な消費経験を説明するエクスペリエンス・クオリティについて考える。
14 回	スポーツ消費者とスポーツスポンサーシップ	今日、スポーツとそれを支援するスポンサーとのパートナーシップを通じて様々な価値が創造され、スポーツ界の発展に貢献している。ここではスポーツ組織、スポンサー、消費者の三者がどのように関わることでスポンサーシップが促進されるかについて学びを深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配布される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 前半の内容に関するレポート（関与、PCM、顧客満足、顧客ロイヤルティ）：50 点

2. 後半の内容に関するレポート（社会的 ID、ブランド、エンゲージメント、消費経験）：50 点

【評価基準】

【レポートの評価基準】

それぞれのレポートはスポーツ消費者行動に関する 10 個の問いによって構成される。各問いに対する解答を以下の基準に従って評価する。

5 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。

1 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

[Outline and objectives]

This is an advanced course to learn the psychology and behavior of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport consumers.

MAN5001I

スポーツフィールドスタディー演習

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者のニーズや特性を理解するための市場調査を実際に行う。

【到達目標】

1. 量的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
2. 量的なアンケート調査を実施し、結果をまとめることができる。
3. 質的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
4. 質的なインタビュー調査を実施し、結果をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

2020 年度の授業は 4 月 23 日（木）より開始します。

学習支援システムに授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。スポーツ組織は多様化するスポーツ消費者のニーズやライフスタイルに応じたサービスの提供を提供しなければならない。本授業はスポーツ消費者のニーズの理解において欠かすことのできない市場調査および解析の手法を学ぶとともに、実際の調査をとおして学習内容を実践経験へとつなげることが目的である。受講者はスポーツメーカー、プロスポーツチーム、フィットネスクラブなどのスポーツ消費者から収集したデータを解析し結果を報告することで、現場における課題の解決に資する証左の提示方法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツマネジメント現場の課題	スポーツマネジメント現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2 回	社会調査の種類	量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けられることのできる判断力を身に付ける。
3 回	質問項目の作成	量的なアンケート調査において設定する必要のある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学び、自ら作成する。
4 回	調査票の作成	調査票の説明および依頼文の作成に加え、回答者が答えやすい質問項目のデザインやレイアウトを学び、さらにアンケートにおける共通手法分散バイアスや疲労バイアスなどの制御方法についても学習する。
5 回	標本抽出方法	社会調査における標本抽出方法について、確率抽出法と非確率抽出法の二種類から学びを深め、各自の調査に適したサンプリング方法を選択する。
6 回	量的データの入力	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを、エクセルと SPSS を用いて学習する。
7 回	量的データの記述統計	実際に収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
8 回	心理的要因の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
9 回	図表の作成	記述統計と心理的要因の分析結果を、エクセルによってグラフや表にまとめる。
10 回	質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
11 回	質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。

12 回	質的データの分析の実施	テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化を実際に行う。併せて、収集した質的データの分析結果をエクセルの表やパワーポイントの図などでまとめる方法を学ぶ。
13 回	期末調査レポート提出	学期を通じて実施した量的研究と質的研究の結果を、パワーポイントを用いて期末レポートとして提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

J リーグスタジアム観戦者調査（日本プロサッカーリーグ）
スポーツ白書（笹川スポーツ財団）

【成績評価の方法と基準】

課題 1（調査票の作成）：25 点

課題 2（アンケート調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 3（インタビュー調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 4（調査レポート）：25 点

【評価基準】課題 1～4 の評価基準は以下とする：

25 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでおり、導き出した解答も課題に対する的確に答えている。

20 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでいる。

15 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら課題に取り組んでいる。

10 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

5 点：指定の形式に沿って書いている

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Sports organizations must provide services according to the needs and lifestyles of diversifying sports consumers. The purpose of this class is to learn the market investigation and analysis method indispensable in understanding the needs of sports consumers and to connect learning contents to practical experience through actual investigation. Students will learn how to present evidence that will contribute to solving problems at the practical environment by analyzing data gathered from sports consumers such as sports makers, professional sports teams and fitness clubs and reporting the results.

MAN5001I

スポーツマーケティングリサーチ演習

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究や実務においても重要となるデータマイニングやテキストマイニングといった定量的な情報の扱い方について理解を深めていく。具体的にはマーケティング実行のプロセスの基礎的な情報である消費者の行動や特性を把握するための実践的な能力を身に付ける。

【到達目標】

マーケティングをおこなううえで、経営上の課題を発見し、解決するための方法（リサーチデザイン・分析および統計解析の手法）を理解していること、さらにはリサーチを自ら活用（実務者の立場からのインプリケーションを行うこと）する能力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義部分としてマーケティングリサーチの概要および統計的な分析の手法を学んだうえで、演習として我が国を代表するプロスポーツであるプロ野球や J リーグなどの実際のプロスポーツ興行に会場した観戦者を対象とした定量調査を実施し、調査の手法についての学習および得られたデータの解析をおこなうものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	マーケティングリサーチの概要	マーケティングリサーチの概要及びリサーチのプロセスについて解説する
2 回	課題設定	スポーツビジネスにおける経営的な課題を考え、調査すべき課題について検討していく
3 回	調査の種類	国内外の調査研究から調査の事例や、尺度について解説していく
4 回	定量データの扱い方①	SPSS について、基礎的な使用法について解説する
5 回	定量データの扱い方②	基礎集計（度数分布、記述統計、平均値、中央値）について学習する
6 回	定量データの扱い方③	t 検定および χ^2 検定、一元配置の分散分析について学習する
7 回	定量データの扱い方④	二元配置の分散分析、重回帰分析について学習する
8 回	定量データの扱い方⑤	探索的、確認的因子分析について学習する
9 回	定量データの扱い方⑥	テキストデータの解析について学習する
10 回	リサーチデザイン	調査項目の検討や妥当性について検討し、適切な調査を行うための準備を行う
11 回	質問紙調査の作成	各自が設定した課題に対して仮説を設定した質問紙調査の作成および、データ入力後の準備（SPSS のシンタックスの作成等）を行う
12 回	フィールドサーベイ	スタジアム等で調査を行う
13 回	サマリーの作成	得られたデータを入力し、集計作業を行う
14 回	調査報告書の作成	得られたデータからさらに、自らの課題を踏まえ、分析を行い、報告書をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSS については与えられたデータセットから、分析および統計解析の手法について事前の学習と事後の復習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業にて課す課題報告（40%）、レポートおよび実査から得られたサマリー報告（60%）などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

実査スケジュールを早目に公開し、早めに調整を図っていく

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

HSS500I1

スポーツコーチング学特論

苅部 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解し、その実践法を探究する。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングの実践のために必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

球技スポーツ、個人スポーツなど様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどの生涯スポーツに関するコーチングの方法や実践に関する論文や文献を読み解き要約を行う。さらにそれらについて自身の考えを述べるとともにディスカッションを行い、その内容をまとめる。また、実際のコーチングの問題、課題を検討するために、フィールドワークや事例報告などのフィールドスタディを実施し、プレゼンテーションによる発表、報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツコーチングとは	スポーツコーチングの本質を理解する 国内外のスポーツコーチングの実際について理解する
第 2 回	スポーツコーチングの方法① 球技系・集団型スポーツ	競技型スポーツコーチングの理論を習得する 球技系・集団型スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
第 3 回	スポーツコーチングの方法② 個人型スポーツ	競技型スポーツコーチングの理論を習得する 個人型（競争型・対人型）スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
第 4 回	スポーツコーチングの方法③ 生涯スポーツ	生涯スポーツコーチングの理論を習得する レクリエーションスポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
第 5 回	コーチングに必要なスキル	リーダーシップ、コミュニケーション能力などコーチングに必要なスキルについて理解を深める
第 6 回	コーチングの実践（技術）	技術面から見たコーチング実践について理解を深める
第 7 回	コーチングの実践（体力）	体力面から見たコーチング実践について理解を深める
第 8 回	コーチングの実践（戦術）	戦術面から見たコーチング実践について理解を深める
第 9 回	コーチの心理	競技者の心理を理解したうえでコーチの心理について考える
第 10 回	コーチング哲学	コーチの持つべき哲学について検討する
第 11 回	コーチング倫理・危機管理	コーチの持つべき倫理・危機管理について検討する
第 12 回	系統的指導プログラムの構成① 競技スポーツ	競技スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う
第 13 回	系統的指導プログラムの構成② 生涯スポーツ	生涯スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う
第 14 回	スポーツコーチング研究方法	スポーツコーチングの研究手法、データの解析方法を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文検索サイトや図書館検索システムを利用しコーチングに関する論文や文献を読み、要約する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に設けないが、適宜論文や文献を使用する

【参考書】

コーチングの心理 Q & A 不味堂

スポーツトレーニング理論 ブックハウス HD

【成績評価の方法と基準】

授業内を行う課題レポート（50%）とプレゼン・ディスカッションでの発言内容（50%）にて評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to gain in-depth knowledge of sports coaching and to learn how to develop one's own coaching style.

HSS50011

スポーツ運動学特論

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・運動の指導対象者のからだの理解と対象ごとの指導方法・内容を理解する。

【到達目標】

指導対象者のからだの特徴を理解し、その指導方法・内容を選択・活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ科学に立脚したスポーツ・運動の指導が求められている。指導対象者ごとの特徴、指導環境の特徴、指導方法・内容の特徴、それぞれの理解を促し、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して双方向の講義にする。春学期前半はオンラインでの開講となる。

各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。

本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツ・運動の指導における留意点	・対象者のライフステージの理解 ・対象者のからだの特性の理解
2 回	スポーツ・運動の指導における留意点	スポーツ科学に立脚した指導の理解
3 回	指導対象者の理解（性別）	女性を指導する際の特徴の理解
4 回	指導対象者の理解（年齢）	幼少児を指導する際の特徴の理解
5 回	指導対象者の理解（年齢）	思春期生徒を指導する際の特徴の理解
6 回	指導対象者の理解（年齢）	中高年者を指導する際の特徴の理解
7 回	指導対象者の理解（体力レベル）	脆弱者を指導する際の特徴の理解
8 回	指導対象者の理解（体力レベル）	パラアスリートを指導する際の特徴の理解
9 回	指導対象者の理解（体力レベル）	アスリートを対象とした指導の特徴の理解
10 回	指導環境の理解	自然環境の影響を理解する
11 回	指導環境の理解	人工環境の影響を理解する
12 回	指導環境の理解	社会環境の影響を理解する
13 回	指導方法・内容の特徴	性別とその指導方法・内容を理解する
14 回	指導方法・内容の特徴	年齢とその指導方法・内容を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた対象者に関する先行研究を事前に読んで、内容をプレゼンする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

指導対象者を選択し、その指導に関するレポート（60%）、レポートのプレゼンテーション（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

バイオメカニクスに限らず、身体運動に関わる多くの分野の論文を輪読する

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンのための PC

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The purposes of this class are to learn the feature of physical construction and function on the sport training subjects and to learn the procedures/contents of the training for each subject. References are presented and discussed among students in the class in order to understand the feature and the training procedures/contents better.

HSS50011

スポーツバイオメカニクス特論

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツでみられる身体運動のバイオメカニクスの計測法を学び、それらを用いて身体運動を計測し、分析する。

【到達目標】

- ・計測法の原理を理解する。
- ・計測法の活用を理解する。
- ・身体運動の計測・分析計画を立てられるようになる。
- ・身体運動を計測・分析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・バイオメカニクスの計測法を受講学生で分担し、それぞれその原理・活用を調べてプレゼンする。

・学んだ計測法を活用してスポーツでみられる身体運動を受講学生が選択し、計測・分析の計画を立てる。

・計画に基づいて実際に計測・分析し、フィードバックプレゼンをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	講義の進め方の説明 身体運動の計測法の紹介 参考図書の紹介	計測法を分担し、原理・計測・分析法の調べ方を指示する
2 回	映像による計測法	高速度ビデオの原理、それを用いた映像による身体運動の計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
3 回	Motion Capture 法	Motion Capture 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
4 回	ゴニオメータ法	ゴニオメータ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
5 回	GPS 法	GPS 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
6 回	超音波法、MRI 法	超音波法、MRI 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
7 回	フォースプラットフォーム法	フォースプラットフォームの原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
8 回	ストレインゲージ法	ストレインゲージ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
9 回	加速度計法	加速度計法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
10 回	筋電図法	筋電図法の原理、計測・分析法のプレゼンをしてもらい、補足説明により理解を促す
11 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（歩、走）	歩、走動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
12 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（跳）	歩、走動作の分析結果をフィードバックする。跳動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
13 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（投、打）	跳動作の分析結果をフィードバックする。投、打動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
14 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析のまとめ	投、打動作の分析結果をフィードバックする。計測・分析のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・割り当てられた計測法の原理、計測・分析法を準備学習として調べ、プレゼンの準備をする。
 - ・割り当てられた身体運動の計測・分析の計画を立てて、プレゼンの準備をする。
 - ・割り当てられて計測した身体運動を分析し、フィードバックの準備をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・「バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎」金子公有、福永哲夫編、杏林書院

【参考書】

- ・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか編著、朝倉書店
- ・「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良、藤井範久、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

- ・身体運動の計測法のプレゼン60点
- ・身体運動の分析結果フィードバック40点

【学生の意見等からの気づき】

多様な分野の院生がいるので、講義開始時の説明をさらに理解しやすいものにする

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン、分析、フィードバックのためのPC

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Principles and operations are introduced on several biomechanical machines, and then, human motions, especially sport motions, are measured and analyzed by using these biomechanical machines. And also, presentations and discussions are conducted on these analyses based on the references.

HSS500I1

スポーツトレーニング学特論

Nemes Roland

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの基本となる体力要素のトレーニング方法としてストレングス・コンディショニングトレーニングを中心に、様々なトレーニング方法に対する身体の諸適応およびその機序を学習する。対象・目的に応じた適切なトレーニングプログラムを作成するための基礎理論や各種スポーツ現場への実践のための段階的プログラミングについても学ぶ。

【到達目標】

筋力、パワー、全身持久力、スピード、協調性、柔軟性などの各種トレーニング理論と方法論について理解、具体的なプログラミングを行うトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定およびプログラム立案方法を理解、実践する傷害の評価および指導対象の評価とあわせて対象者に適切な運動処方を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

運動処方・運動療法として行われるプログラムの立案と実施における原理・原則、エクササイズの特徴とその効果、各年代におけるトレーニングの注意点や個人差の要因等について、科学的根拠に基づき講義・議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業概要、基礎的知識の確認、原理・原則
2 回	コーチングとトレーニング	コーチング学、コーチング現場とトレーニング学の関係
3 回	トレーニングの基礎	様々な能力、スキルについて学ぶ
4 回	トレーニング原理	トレーニングにおける年代別、競技レベル別考え方
5 回	トレーニングモデルと漸増負荷性の原理	トレーニング負荷、様々な方法、順序について学ぶ
6 回	発表①	第 1 回目の発表
7 回	トレーニングのための準備	一般と専門的体力トレーニングについて学ぶ
8 回	ジュニア世代におけるフィジカルトレーニング	長期的選手開発（LTAD）、育成世代のフィジカルトレーニング、発達曲線、トレーニングの原理・原則、タレント発掘について学ぶ
9 回	トレーニングの基本期分け（ピリオダイゼーション）	ピリオダイゼーションにおける様々な考え方について学ぶ
10 回	発表②	第 2 回目の発表
11 回	技術・戦術トレーニング	トレーニングと技術や戦術の関係について学ぶ
12 回	球技のピリオダイゼーションにおける近代的な考え方	戦術的なピリオダイゼーション（タクティカル）とブロックピリオダイゼーションについて学ぶ
13 回	アスレチックな能力の評価	種別測定方法について学ぶ
14 回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学、生理学等基礎的知識の確認
自身の経験から各種トレーニングを考察する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

トレーニングのための生理学的知識. 市村出版
競技力向上のトレーニング. 大修館書店
スポーツコーチング学. 西村書店
ストレングストレーニング&コンディショニング. ブックハウス・エイチデイ
トレーニングの科学的基礎. ブックハウス・エイチデイ
測定と評価 現場に活かすコンディショニングの科学. ブックハウス・エイチデイ

【成績評価の方法と基準】

2回プレゼンテーション（2回 25%）、試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The main goal of the course is to gain a general understanding of basic physiology and methodology in sports training science. Training and conditioning will be presented by a practical coaching point of view. Students are required to discuss and present related research papers.

HSS500I1

発達発達学特論

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

乳幼児期から高齢期までのヒトの一生にわたる心身の変化について理解し、各時期における健康課題を明らかにすることで、その解決方法を探る。特に学童期から中・高生期においては、学校教育の中での保健体育科目を通じた運動実践や健康づくりについて追求する。また、中年期以降は加齢・老化と身体活動との関係をもとに、生活習慣病予防について議論する。

【到達目標】

発達・発達、加齢に伴う身体変化について理解し、その視点から健康課題を考え、科学的根拠に基づいた健康教育や対策について検討できる能力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人の誕生から成長、成熟、老化といったライフステージに沿って、その過程を概観し、生涯における心や身体、健康や体力の変化の現象を明らかにする。授業は、講義による基本的知識の共有した上で、受講者が準備した各回のテーマに沿った話題について受講者全体で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。
2 回	発達の見方・とらえ方	発達の概要を理解し、個人差や発達を支え・促す環境、健康との関係を概観する。
3 回	乳幼児期の発達	乳幼児期の発達に関する基礎的理論を理解する。
4 回	乳幼児期の発達	乳幼児期の、発達と健康課題との関係を議論する。
5 回	学童期の発達	学童期の発達に関する基礎的理論を理解する。
6 回	学童期の発達	学童期の、発達と健康課題との関係を議論する。
7 回	中・高生期の発達	中・高生期の発達に関する基礎的理論を理解する。
8 回	中・高生期の発達	中・高生期の、発達と健康課題との関係を議論する。
9 回	青年期（後期）の発達	青年期（後期）の発達に関する基礎的理論を理解する。
10 回	青年期（後期）の発達	青年期（後期）の、発達と健康課題との関係を議論する。
11 回	生活習慣病と身体活動	身体活動（生活活動・運動）に取り組むことで得られる効果について理解する。
12 回	壮年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が壮年期の心身に与える影響について議論する。
13 回	中年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が中年期の心身に与える影響について議論する。
14 回	高年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が高年期の心身に与える影響について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。また、話題提供の担当となった回には、討論のテーマと必要に応じて資料を用意する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

抄録・プレゼンテーション	30 %
授業への参画状況	50 %
課題レポート	20 %

【学生の意見等からの気づき】

各受講者の研究テーマと関連を持たせるように、授業内容を工夫する。

【Outline and objectives】

Understanding the process of body development and functioning is important for school education and sports leaders. It is also important to understand the process from the growth period to the old age in the modern aging society.

In this lecture, we will understand the mental and physical changes over the life of humans from infancy to old age, and clarify the health issues at each time to find a solution. In particular, during the period from school age to high school, we will pursue exercise and health promotion through health and physical education subjects in school education. After middle age, we will discuss the prevention of lifestyle-related diseases based on the relationship between aging and physical activity.

HSS500I1

スポーツ教育学特論

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校体育を含むスポーツ教育の歴史・課題・展望

【到達目標】

学校体育を含むスポーツ教育に関する基礎的知識を修得し、今日の課題と今後の展望を考究する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を別出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を別出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育／地域スポーツの今日の課題と今後の展望について議論する。特に後半では受講生の参加による議論を促し、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業のスケジュール、ねらい、概要、評価等について受講生に説明する。
2 回	スポーツ・体育とは何か	スポーツと体育の概念について、これまでの日本での捉え方を含めて解説する。
3 回	スポーツの歴史①	未開～古代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
4 回	スポーツの歴史②	前近代～近代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
5 回	スポーツの歴史③	日本の江戸期における武術教育について論じる。
6 回	スポーツの歴史④	日本の明治期における体操・欧米スポーツの輸入と定着が学校体育にもたらした影響について論じる。
7 回	嘉納治五郎とクーベルタン	近代オリンピックの主導者・クーベルタンのスポーツ教育思想を、日本体育界の牽引者・嘉納治五郎の体育思想と関連づけながら論じる。
8 回	日本の体育とオリンピック	東京オリンピック（1964 年および幻に終わった 1940 年）について、日本の体育／スポーツ教育への影響という観点から論じる。
9 回	戦後日本の学校体育①	昭和の戦後における学校体育について、学習指導要領の変遷を中心に論じる。
10 回	戦後日本の学校体育②	現代におけるスポーツのグローバル化を捉え、主に学校体育に与える影響について論じる。
11 回	日本における体育授業の現状と課題①	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に学習内容・教材づくりの観点から論じる。
12 回	日本における体育授業の現状と課題②	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に教授法の観点から論じる。
13 回	日本における学校運動部活動の教育的意義および現状と課題	学校運動部活動の教育的意義について歴史的視点から講述し、さらに現状と問題点について地域スポーツのあり方と関連づけながら論じる。
14 回	学校体育／スポーツ教育における道徳教育の可能性	マナー、フェアプレイ、アンチ・ドーピング、責任学習など、学校体育／スポーツ教育が有する道徳教育としての可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションおよびレポート作成のための講義内容の復習と、自己の意見を補足するための文献資料の調査等。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

学校体育制度史（大修館書店）、現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか（ミネルヴァ書房）、体育の人間形成論（大修館書店）、体育の教材を創る（大修館書店）、等。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション等の参加状況（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も少人数制の利点として、各種のトピックについて一歩深い議論を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

今日の学校体育／スポーツ教育は様々な課題や問題点を抱えているが、なぜそうなっているのか、改善するためには何が必要なのか、本授業でそれらを考える知力と見識を養いたい。

【Outline and objectives】

This class is for students wishing to consider why so many subjects in Physical Education/Sports Education have been materializing in the curriculum, and what is necessary to consider or improve in these subjects.

HSS500I1

チームビルディング演習

山田 快

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、チームビルディングについて実践的に学習していきます。

【到達目標】

スポーツをはじめとして、多様な組織が最大のパフォーマンスを発揮する上で活用されているチームビルディングの手法を身につけることを目指します。とりわけ、受講者が各フィールドで活かせるチームビルディングのプログラムを創造し、それを実践できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

チームビルディングについての知識を学び、学んだ手法を実践していきます。また、得られた気づきや学び（効果的な実践ポイントなど）を受講者間でシェア・ディスカッションします。スポーツという特異なフィールドに焦点を当てながら、そこで有用な手法を他のフィールドにも活かすことができるよう取り組んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と計画を確認し、共有する。
第 2 回	チームビルディングの基礎	チームビルディングの基礎知識を身につける。
第 3 回	チームビルディングの理論①	チームビルディングの概念を学ぶ。
第 4 回	チームビルディングの理論②	チームビルディングの理論を学ぶ。
第 5 回	身体を用いたワークの実践①	コミュニケーションワークを学び、実践する。
第 6 回	身体を用いたワークの実践②	コミュニケーションワークを学び、実践する。
第 7 回	チームビルディングの評価	チームビルディングの評価方法を学ぶ。
第 8 回	ファシリテーションの手法①	エクササイズを体験し、実践する。また、そこから得られる気づきなどについてディスカッションする。
第 9 回	ファシリテーションの手法②	エクササイズを体験し、実践する。また、そこから得られる学びなどについてディスカッションする。
第 10 回	ファシリテーションの手法③	エクササイズを体験し、実践する。また、そこから得られる気づきや学びなどについてディスカッションする。
第 11 回	ワークショップのデザイン①	スポーツチームを対象としたワークショップを企画し、実践する。また、そこから得られる気づきなどについてディスカッションする。
第 12 回	ワークショップのデザイン②	スポーツチームを対象としたワークショップを企画し、実践する。また、そこから得られる学びなどについてディスカッションする。
第 13 回	ワークショップのデザイン③	スポーツチーム以外の組織を対象としたワークショップを企画し、実践する。また、そこから得られる気づきや学びなどについてディスカッションする。
第 14 回	チームビルディングの可能性	チームビルディングがもつ可能性について検討し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習した内容を実践し、活用できるようになることを目指して、毎回の授業で提示される課題に主体的に取り組んで下さい。また、関連する論文や書籍などを用いて、積極的に理解を深めていって下さい（1 回の授業につき、4 時間程度の学習が望まれます）。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要と希望に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を基準として、総合的に評価を行います。

①授業への参画状況（毎時の課題やグループワーク、意見交換、プレゼンテーションなど）：60%

②授業の到達目標に対応した学期末課題：40%

然ることながら、欠席と遅刻は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

前回の開講から少々時間が経過していますが、当時受講者より教員もディスカッションに加わることで、学びが深まるとの意見を頂きました。については、今回も本点を意識し、積極的に受講者と意見交換を図りながら進めていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

各年での開講を予定しているため、2021 年度は開講されない可能性があります。については、他の授業との兼ね合いもあるかと思いますが、できる限り本年度に受講されることをお勧めします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the fundamental knowledge of team building, and to practice the team building skills or workshop.

HSS50011

アスレティックトレーニング特別演習

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける外傷・障害予防、運動機能評価に基づいた運動療法の実践方法について学習する。アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングの背景となるさらに国内外の研究論文の検討から、最新の研究成果や知見について理解するとともに、エクササイズ自体の実践方法を習得する。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害に関する基本的な身体特性の評価方法、予防・改善のためのエクササイズについて学び、実際の研究計画を立てられるようになる。アスレティックリハビリテーションおよびストレングストレーニングプログラムを作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングに必要な解剖学的基础知識（筋・腱・関節・神経等）の復習。スポーツ外傷・障害に対する評価、スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する文献（論文）講読

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	文献（論文）購読について、機能解剖学知識の確認
2 回	スポーツ傷害予防	緊急対応、安全管理体制、アライメント、関節可動域、筋力評価、スペシャルテスト
3 回	アスレティックリハビリテーション	傷害評価、運動療法、リスク管理
4 回	上肢の評価	手・前腕・肘・肩関節の評価／講義
5 回	上肢の運動療法	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／講義
6 回	文献講読：上肢①	手・前腕・肘・肩関節の評価／文献（論文）購読
7 回	文献講読：上肢②	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／文献（論文）購読
8 回	体幹の評価	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／講義
9 回	体幹の運動療法	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／講義
10 回	文献講読：体幹①	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／文献（論文）購読
11 回	文献講読：体幹②	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／文献（論文）購読
12 回	下肢の評価	足・膝・股関節の評価／講義
13 回	下肢の運動療法	足・膝・股関節の運動療法／講義
14 回	文献講読：下肢およびまとめ	足・膝・股関節の評価／文献（論文）購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学・生理学の知識が必須である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

臨床スポーツ医学編集委員会：スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第2版（文光堂）
小林直行、成田崇矢、泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング（医歯薬出版）
日本スポーツ協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）
広瀬統一他、アスレティックトレーニング学（文光堂）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーション・レポートの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度の反省から、発表に基づいた議論を演習の中心に置いた。そのため議論が活発になり、双方向性の授業が展開できたと考えている。この方法で続けていきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of the athletic training seminar is as follows, students study how to practice exercise therapy based on sports injury prevention and motor function evaluation. Students review domestic and international research papers and present the latest research results and findings

EDU50011

保健体育科教育法特別演習

永木 耕介、鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健体育科における授業実践力の養成

【到達目標】

保健体育科におけるよりよい授業を考究し、実践できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

保健体育科のよりよい授業実践に対する力量形成を図るため、中学校・高等学校や特別支援学校の現場におけるフィールドワークを行う。また、学内においては学部生に対するメンタリング実習や模擬授業を行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導助言・評価を得て授業実践に対する反省的思考を深める。なお、原則としてすでに保健体育科教員免許を取得している大学院生を対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業の目標と方法に関する説明を行い、今後のスケジュールについて打ち合わせを行う。(担当：永木・鬼頭)
2 回	学校現場の観察①	近隣の中学校の体育授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
3 回	学校現場の観察②	近隣の高等学校の体育授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
4 回	学校現場の観察③	近隣の中学校の保健授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：鬼頭)。
5 回	学校現場の観察④	近隣の高等学校の保健授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：鬼頭)。
6 回	学校現場の観察⑤	特別支援学校(中等部)の体育授業を観察／補助し、気づいた点をレポートする(担当：永木)。
7 回	学校現場の観察⑥	特別支援学校(高等部)の体育授業を観察／補助し、気づいた点をレポートする(担当：永木)。
8 回	振り返り①	各種の学校における観察実習を振り返り、よい体育授業の在り方についてディスカッションする(担当：永木)。
9 回	振り返り②	各種の学校における観察実習を振り返り、よい保健授業の在り方についてディスカッションする(担当：鬼頭)。
10 回	模擬授業①	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした体育の模擬授業をグループ①が行い、ゲスト・ティーチャー(ベテラン教職経験者)の指導・評価を受ける(担当：永木)。
11 回	模擬授業②	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした体育の模擬授業をグループ②が行い、ゲスト・ティーチャー(ベテラン教職経験者)の指導・評価を受ける(担当：永木)。
12 回	模擬授業③	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした保健の模擬授業をグループ③が行い、ゲスト・ティーチャー(ベテラン教職経験者)の指導・評価を受ける(担当：鬼頭)。
13 回	模擬授業④	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした保健の模擬授業をグループ④が行い、ゲスト・ティーチャー(ベテラン教職経験者)の指導・評価を受ける(担当：鬼頭)。
14 回	まとめ	全体的な総括を行い、各自の今後の課題を探る。(担当：永木・鬼頭)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料・文献の収集、レポート作成、模擬授業づくりに対する準備。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領解説・保健体育編(平成 20 年版・29 年版)、高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編(文部科学省)、中学保健体育(学研)、最新高等保健体育(大修館書店)、体育授業を観察評価する(明和出版)

【成績評価の方法と基準】

フィールドワーク参加状況(50%)、模擬授業・プレゼンテーション(20%)、レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】

学外における授業観察を積極的に行い、学生の現場理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This seminar is for students wishing to train in the practical skills necessary to facilitate Health and Physical Education classes.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

安藤 正志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。

【到達目標】

1. 修士論文作成のために必要な研究遂行能力を育成する。
2. 研究構想発表会の準備を整える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1. ヘルスデザインに関連するテーマについて研究指導を行う。特に、次に示す研究領域における特定の研究を行い、修士論文（事例研究を含む）作成に向けた作業に着手する。1) ヘルスデザインに関する理論構築のための調査研究、2) ヘルスデザインに関する実験的・実証的研究および事例研究、3) ヘルスデザイン活動に伴う種々の現象の解明に関する研究。
2. ヘルスデザイン学に関連する先行研究や書籍等の精読を通じて、各自の研究の理論的背景や立場を明確にするとともに研究の仮説や方法論を吟味し、研究テーマの確立と研究計画の作成に取り組む。各授業では、受講生が作成した抄録に基づくプレゼンテーションを行い、受講生間での質疑応答を通して課題の明確化を図る。その後、担当教員による指導を受け、次週までの課題を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	論文抄読の概要、各自の研究計画発表①
2 回	論文抄読 1	スポーツ外傷・障害予防・総論
3 回	論文抄読 2	スポーツ外傷・障害予防・各論
4 回	論文抄読 3	スポーツ外傷・障害評価・上肢
5 回	論文抄読 4	スポーツ外傷・障害評価・体幹
6 回	論文抄読 5	スポーツ外傷・障害評価・下肢
7 回	論文抄読 6	スポーツ外傷・障害予防・評価：まとめ
8 回	研究計画発表②	各自の研究計画発表②
9 回	論文抄読 7	健康科学に関するトピック 1
10 回	論文抄読 8	健康科学に関するトピック 2
11 回	論文抄読 9	健康科学に関するトピック 3
12 回	論文抄読 10	健康科学に関するトピック 4
13 回	論文抄読 11	東洋医学的物理療法
14 回	プレゼンテーション方法	抄録、プレゼンテーションファイル、ポスター作製など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布する。

【参考書】

課題に応じた文献など、授業前に告知する。

【成績評価の方法と基準】

研究レポート、プレゼンテーション、レジュメ・抄録による総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

大学にある機器など

【Outline and objectives】

Improve your ability to set issues and organize and clarify your research themes.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題設定能力を高め、自らの研究テーマであるアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を整理し明確にする。

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ② 上記に基づき、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を検討し修士論文の研究手法、実践内容について理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、論文作成における関連知識と方法論を深く修得する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	論文抄読の概要、各自の研究計画発表①
2 回	論文抄読 1	スポーツ外傷・障害予防・総論
3 回	論文抄読 2	スポーツ外傷・障害予防・各論
4 回	論文抄読 3	スポーツ外傷・障害評価・上肢
5 回	論文抄読 4	スポーツ外傷・障害評価・体幹
6 回	論文抄読 5	スポーツ外傷・障害評価・下肢
7 回	論文抄読 6	スポーツ外傷・障害予防・評価：まとめ
8 回	研究計画発表②	各自の研究計画発表②
9 回	論文抄読 7	アスレティックリハビリテーション・上肢
10 回	論文抄読 8	アスレティックリハビリテーション・体幹
11 回	論文抄読 9	アスレティックリハビリテーション・下肢
12 回	論文抄読 10	一般的物理療法
13 回	論文抄読 11	東洋医学的物理療法
14 回	プレゼンテーション方法	抄録、プレゼンテーションファイル、ポスター作製など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究領域以外の研究にも積極的に触れる姿勢が望まれる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他, 身体活動科学における研究方法, NAP
 広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

論文抄読と研究計画の進捗とのバランスをとりながら進めていきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students are required to clarify their research topics by organizing related knowledge in the field of athletic training and sports medicine.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のため、研究とは何かということを学んでいく。具体的には課題の設定と、問題を解決するための能力や方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

初学者として、必要な知識や能力の獲得。
 具体的には以下について修士論文作成に必要な水準の能力の獲得を目指す。
 ・研究倫理の問題
 ・研究の妥当性や信頼性の担保
 ・適切な課題の設定
 ・研究の価値（学術性・新規性）
 ・適切な分析方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、研究者として必要な資質や能力を養うことを目的として進めていく。基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	スポーツマネジメント領域の捉え方①	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのかについて解説する
3 回	スポーツマネジメント領域の捉え方②	スポーツマネジメントの独立性や新規性について理解を深める
4 回	スポーツマネジメントの実際①	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか事例を用いながら解説する
5 回	スポーツマネジメントの実際②	スポーツマネジメント研究における成果を現場にてどのように用いているのかについて解説する
6 回	スポーツマネジメントに関する研究課題①	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて解説する
7 回	スポーツマネジメントに関する研究課題②	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマ、特に近年の傾向について解説する
8 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る①	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する。
9 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る②	プロ・スポーツリーグやチームの定量的な情報を持ちて、経営的な課題や顧客の行動を検討する
10 回	課題に対する解決方法の検討および提案①	課題に対する適切な分析手法（単純集計、クロス集計、t 検定等）について検討する
11 回	課題に対する解決方法の検討と提案②	課題に対する適切な分析手法（回帰分析、多変量解析等）について検討する
12 回	要因とモデル	先行要因および結果要因を概念図と文章にて説明する
13 回	問題の所在	社会的、学術的な観点から問題の所在について検討する
14 回	研究の目的	何をどこまで明らかにするかについて検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の抄読など予習を必要とする内容が多いため、事前に文献を読む事と、資料をあらかじめ用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究および文献

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (30%) および授業への関与状況 (40%)、成果物の評価 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

This course is a seminar of sport management research. Students will select appropriate topics for their own master's theses, review the literature on their topics and identify significant gaps in previous research.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

高見 京太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【到達目標】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

In this class, we will discuss generations from children to elderly people, cases, and academic papers on health and physical fitness. Then, we learn the field of health promotion and learn methods to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

平野 裕一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文ではフィジカルあるいはスキルのトレーニングを題材とすることを指すので、そのために必要となる知識と手技、特にトレーニング科学およびスポーツバイオメカニクスに関する知識と手技を習得する。

【到達目標】

- ① トレーニング科学あるいはスポーツバイオメカニクスに関する知識を深める
- ② 題材とするフィジカルあるいはスキルのトレーニングの研究デザインを作成する
- ③ トレーニング効果を測定する手技を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の研究課題およびそれを解決するための研究デザインを検討する。その中で必要となる知識を深め、効果を測定する手技を習得する。春学期前半はオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究倫理の理解	研究を開始するにあたって必要となる研究倫理について検討し、理解する
2 回	研究領域の理解	トレーニング科学とスポーツバイオメカニクスの研究の中での位置づけを理解する
3 回	研究課題と卒業研究との関連づけ	各自の卒業研究をプレゼンし、今後の研究課題を検討する
4 回	運動・スポーツに関する背景からみた研究課題の適切性	研究課題に対する背景を検討し、課題の適切性を検討する
5 回	研究課題の新規性の検討	研究課題に関する先行研究を渉猟し、新規性の観点から課題を明確にする
6 回	研究目的までの研究遂行の論理性と仮説の設定	研究目的までのストーリーを作成し、仮説を設定する
7 回	研究対象の設定	課題を解決するために必要な対象を選定する
8 回	測定法の調査	量的か質的かを含めて必要となる測定法を調査する
9 回	測定法の適切性	これまでの測定法も含めて、選択した測定法が適切であるかを検討する
10 回	測定法の熟知と適切性	調査・選択した測定法が課題解決に適切であるかを検討し、測定法に熟知する
11 回	測定データ指標の設定	測定によって得られたデータから課題解決に向けた指標を明確にする
12 回	データ処理のための統計手法の理解	課題解決に向けた統計手法を検討、理解する
13 回	研究の緒言、方法の改めでの確認	当初の課題との対比で、ここまでの緒言、方法を改めて確認する
14 回	研究デザインのプレゼンテーション	作成した研究デザインをプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 研究課題を検討し、先行研究を精読し、測定法を調査する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「緒言」の完成度（60%）、プレゼンテーション（40%）

発行日：2020/5/1

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

PC、データ分析のためのソフトウェア（エクセルなど）、プレゼンテーションのためのソフトウェア（パワーポイントなど）

【Outline and objectives】

This class asks the students to learn knowledges and techniques on science in sports training and sports biomechanics.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
2. 修士論文の概要を理解し、自分の研究テーマの基礎となる概念や理論について学びを深めるとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定する。

【到達目標】

- 1 年次の秋学期に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
1. 修士論文の概要および求められる水準について十分に理解する。
 2. スポーツマネジメントに関する様々な理論について学習し、それらを説明できる。
 3. 現場の課題に対して、学習した理論を根拠に解決策を提案することができる。
 4. 自らの研究テーマにおいて、どの概念や理論を応用することができるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は 4 月 24 日（金）とする。
 本授業の目的は二つある。一つ目は大学院において 2 年間に渡り受講する講義、演習、実習を通じて獲得する知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文の概要を理解することである。二つ目は、スポーツマネジメント領域の研究として修士論文を完成させるために必要となる様々な概念や理論について学習し、ゆくゆくは受講生の研究テーマにそれらの理論を応用できるようにするための基礎的理解を深める。授業では様々な重要概念や理論をどのように自身の研究に応用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	主な先行研究の報告	研究テーマに関して特に重要と思われる文献（3 本程度）を読み、その結果を報告する。
3 回	主な先行研究に関する議論	第 2 週で読んだ 3 つの論文の弱点を特定し、その改善方法について議論する。
4 回	文献の整理	先行研究の問題を特定するため、15 本～20 本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（概念化、測定方法、研究環境）をまとめる。
5 回	概念的の研究のレビュー	先行研究（概念的な研究）をレビューした結果を文章で説明する。
6 回	実証研究のレビュー	先行研究（実証研究）をレビューした結果を文章で説明する。
7 回	概念的アプローチ	自分の興味に最も適した概念的アプローチを特定する。
8 回	研究の新規性	研究として新規性のある先行要因および結果要因を特定する。
9 回	概念図の作成	自身の研究の基礎となる概念図のドラフトを作成する。
10 回	要因間の関係性	先行要因および結果要因を文章で説明する。
11 回	問題の所在	先行研究の問題の所在を明らかにし、記述する。
12 回	研究の目的	修士論文で何をどこまで明らかにするか（研究目的）を設定する。
13 回	研究の重要性	研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から記述する。
14 回	概念規定	自分の研究における主要概念を定義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。必要な資料を事前に読むとともに、疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

先行研究のレビュー： 30 点

概念図の作成： 20 点

先行研究の問題の特定： 10 点

研究目的の設定： 10 点

研究の重要性の特定： 10 点

重要概念の定義： 20 点

合計： 100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができています。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

This course is a seminar of sport management research. Students will select appropriate topics for their own master's theses, review the literature on their topics and identify significant gaps in previous research.

OTR60011

スポーツ健康学演習 I

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
 ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文作成を見据えた演習を行う。スポーツや様々な身体活動における体力に関するこれまでの研究を理解した上で研究テーマ・キーワードを選定し、予備実験・調査を通じ、研究の方法論を習得する。

【到達目標】

9月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
 ① 健康・スポーツ体力学における研究の手法を理解する。
 ② 健康・スポーツ体力学に関する先行研究を理解し、系統立ててまとめることができる。
 ③ 具体的な研究計画を企画し、実行できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する理論や研究法を体系的に理解した上で、受講者の興味に添って先行研究を読解・検証して行きます。これに基づいて、修士論文作成に向けた予備実験・調査を行い、研究手法について理解することを最終的な目標とします。
 授業においては、毎回課題を出し、今回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。これらの発表に際しての準備、および討論等に向けた受講者の積極的な参加が重要となります。
 なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は4月23日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	半期の授業を通じた約束事、および授業内容と展開方法を理解する。
2 回	キーワードの選定	受講者自身が修士論文に向けた仮の研究キーワードを選定する。
3 回	実験・調査方法の理解	該当研究領域における種々の実験・調査方法の概略を解説する。また、先行研究の検索方法を学ぶ。
4 回	先行研究のレビュー	受講生が興味をもつテーマに関する先行研究をまとめて発表し、功績と批判を行う。
5 回	先行研究のレビュー：「文献研究」の作成	前回到引き続いて先行研究の検索・講読を行い、「文献研究」として結果を発表する。
6 回	研究テーマの選定	他者からのフィードバックなどに基づき、研究テーマの選定を行う。
7 回	先行研究のレビュー：総括	研究テーマの選定結果に基づき、先行研究を再度レビューして取りまとめ、発表する。
8 回	研究テーマの決定	文献研究の結果に添って、修士論文の研究テーマを決定する。また、論議結果を参考に、レビューする範囲を再度選定する。
9 回	「文献研究」の発表	修正版の「文献研究」の発表を行う。
10 回	研究課題の設定	文献研究に基づき、修士論文の研究テーマに沿った課題を設定し、発表する。
11 回	変数の整理、仮説の設定	研究課題を解決するために必要な従属変数・独立変数を整理し、目的に沿った研究仮説と共に発表し、論議する。
12 回	方法論の獲得	研究課題・目的を明らかにするための該当分野における方法論のバリエーションを理解する。

13 回	方法論の論議	研究課題を解決するために必要な分析方法・統計解析方法を発表し、指導を受ける。
14 回	予備実験・調査の計画	修士論文を見据えて、同一または類似した方法を採用した予備実験・調査について説明し、受講者自身で計画を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回課題が課されますので、それに従って作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（5～9、13、14回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を大成ってください。また、9の「文献研究」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。なお、各授業における準備および復習等の時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッブ
 ・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
 ・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

1) 各回における課題の内容および発表・達成状況：40%、2) 「文献研究」、「予備実験・調査の計画」に関する課題の内容：30%、3) 討論等への参画状況：30%
 なお、1) に関して3回以上の未発表がある者、2) の課題未発表者については評価を行わない。

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。
 具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、修士論文作成に向けた方法論の確定に時間がかかったことから、今年度は履修者の事前学習による活動へのサポートを充実させ、機材の使用の方法の習得や分析方法の理解などを早めに進展させることを目標としたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is improving the ability to solve and to organize research problems and clarifying of research. Besides, based on the research issues of physical fitness related to health and sports, the students will be training aimed at writing a master's thesis.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

安藤 正志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究方法の枠組や分析手続きに関する能力を総合的に高め、研究計画書を作成する。

【到達目標】

1. 修士論文の研究テーマおよび研究方法を確定する。
2. 修士論文構想発表会において研究構想を発表する。
3. 修士論文計画発表会に向けた研究計画書を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・修士論文構想発表会に向けて、各自の研究テーマおよび研究方法を精査する。また発表会で浮き彫りとなった課題を修正し、研究テーマおよび研究方法を確定する。その後、翌年の修士論文計画発表会に向けた研究計画書の作成に取り組む。

・各授業では、受講生が作成した抄録に基づくプレゼンテーションを行い、受講生間での質疑応答を通して課題の明確化を図る。その後、担当教員による指導を受け、次週までの課題を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の発表、ディスカッション
2 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害予防）、研究計画検討
3 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害の評価）、研究計画検討
4 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション1）、研究計画検討
5 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション2）、研究計画検討
6 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（運動器に対する物理療法）、研究計画検討
7 回	予演／ディスカッション	プレゼンテーション方法・実践、研究計画の検討・討議
8 回	研究計画発表（練習）	各自の研究計画発表・ディスカッション
9 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
10 回	ディスカッション／予備実験	表面筋電図計測／研究計画検討
11 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
12 回	ディスカッション／予備実験	三次元動作分析機器計測／研究計画検討
13 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
14 回	研究計画発表会	修士論文研究計画完成・発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

研究レポート、プレゼンテーション、レジュメ・抄録による総合評価（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【Outline and objectives】

Comprehensively enhance the capacity for research method frameworks and analytical procedures and prepare research plans

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ②修士論文作成に必要なアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を修得する。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ②スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を討議し修士論文の研究計画の完成・予備実験等を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、研究計画を完成させるとともに予備実験等の実践を含め方法論を磨く

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の発表、ディスカッション
2 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害予防）、研究計画検討
3 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害の評価）、研究計画検討
4 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション1）、研究計画検討
5 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション2）、研究計画検討
6 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（運動器に対する物理療法）、研究計画検討
7 回	予演／ディスカッション	プレゼンテーション方法・実践、研究計画の検討・討議
8 回	研究計画発表（練習）	各自の研究計画発表・ディスカッション
9 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
10 回	ディスカッション／予備実験	表面筋電図計測／研究計画検討
11 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
12 回	ディスカッション／予備実験	三次元動作分析機器計測／研究計画検討
13 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
14 回	研究計画発表会	修士論文研究計画完成・発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP
広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

There are two purposes of this seminar. First, through preliminary experiments and preliminary surveys, comprehensively enhance the ability to study such as data collection and analysis. Second, to make a research plan for master's thesis.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント研究にて用いられる概念や、課題について理解するとともに、修士論文作成に資する研究方法や分析の手法などについて理解する。

【到達目標】

修士論文作成において、ベースとなる以下の事柄について理解し、設定しうる能力の獲得を目標とする

- ・研究の目的、方法を設定できる。
- ・合理的な根拠をもって仮説の設定ができる。
- ・正しい標本の抽出や測定尺度の設定ができる。
- ・適切な分析方法を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、テーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。事前・事後学習の内容 各回の予習・復習には約90分～120分かかると想定されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ
2 回	文献の整理	スポーツマネジメント研究における主なテーマや課題につて整理するため、15～20 本程度の文献を検索し、それぞれについてまとめる
3 回	先行研究のレビュー①	レビュー結果について報告する（概念化）
4 回	先行研究のレビュー②	レビュー結果について報告する（測定方法）
5 回	先行研究のレビュー③	レビュー結果について報告する（研究環境）
6 回	研究の新規性・重要性	新規性のある要因の設定や要因間の関係について整理し、学術的・実践的な重要性についてまとめる
7 回	研究の目的・リサーチエスチョン	研究の目的とリサーチエスチョンを設定する。
8 回	仮説の設定①	自らの論文にて設定する仮説導出部分について検討する
9 回	仮説の設定②	設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
10 回	研究の方法	自らの研究を進めるうえで用いる手法（質的、量的、混合型）について検討する
11 回	研究方法の妥当性①	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
12 回	研究方法の妥当性②	統計的な妥当性、信頼性だけでなく、内容的な妥当性や研究対象に対する尺度の設定や分析における妥当性についても検討する
13 回	記述統計	実際のデータを用いて分析を行い、結果を記述する
14 回	t 検定・分散分析	さらに、取得したデータを用いて実際の分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題をまとめ、授業内で発表および議論できる状態にしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

授業への関与状況 (30%)、成果物の評価 (40%)、提出物や議論の内容 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course is a sport management seminar. Its' objectives are to (1) develop a proposal for their master's theses, (2) conduct a pilot study, and (3) design the main study based on the results of the pilot study. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the methodology that is useful for their master's theses.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期	回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

平野 裕一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文ではフィジカルあるいはスキルのトレーニングを題材とすることを指すので、そのために必要となるトレーニング科学およびスポーツバイオメカニクスの手技を習得する。

【到達目標】

① 研究デザインに基づいて、研究に必要となる測定法の手技をさらに深める
 ② 手技の習得から、研究方法を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の研究デザインに基づいて、トライアルとなる測定を実施し、測定法の習得が確実となっていることを確かめる。その中で分析法、結果の解釈も検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期	回	テーマ	内容
	1	測定法の原理の理解	測定法をより深く調べ、原理を確認する
	2	測定する手続きの理解	マニュアルを含め、測定をするための手続きを理解する
	3	測定するための準備	消耗品、事前の機器立ち上げ、キャリブレーションなど、準備を理解し、実施する
	4	トライアルデータを取得する意義	実際の研究遂行にとって、トライアルデータを取得する意義を理解する
	5	トライアルデータを取得するためのデザイン	データ収集の対象をどの範囲にするか、どのような動作条件で取得するかを検討する
	6	トライアルデータの収集	実際にトライアルデータを収集、保存する
	7	トライアルデータの処理	トライアルデータを処理し、統計手法を施す
	8	トライアルデータの表示、記述	処理したデータを記述する
	9	トライアルデータのプレゼンテーション	対象者、測定条件、処理法を含めてプレゼンテーションする
	10	測定対象の記述	測定の意義、実際の説明、同意を得たことの記述、倫理審査を受けたことの記述のしかたを理解し、実際に記述する
	11	測定条件、測定風景の記述	測定条件、測定風景の記述のしかたを理解し、実際に作成する
	12	統計処理方法の記述	統計処理方法の記述のしかたを理解する
	13	研究方法の執筆	先行研究の作法にならい、研究方法を執筆する
	14	研究方法のまとめとプレゼンテーション	「研究方法」を完成させ、プレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自必要となる測定法をさらに調査する。
 トライアルデータを分析する。
 「研究方法」を作成する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「諸言」から「方法」までの完成度（60%）、プレゼンテーション（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する

【学生が準備すべき機器他】

PC、データ分析のためのソフトウェア（エクセルなど）、プレゼンテーションのためのソフトウェア（パワーポイントなど）

【Outline and objectives】

This class asks the students to learn knowledges and techniques on science in sports training and sports biomechanics.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究の構想および計画を練ることで、データ収集や分析などの研究方法に関する力を総合的に高める。
2. スポーツマネジメント領域の修士論文の作成に必要な研究方法論を十分に理解する。

【到達目標】

修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請、収集したデータの分析を実際に行うことのできる研究力を獲得する。

1. 修士論文の目的、リサーチエスチョン、仮説を導出し、設定できる。
2. 修士論文の研究の種類と目的に応じて適切な標本抽出方法を選択できる。
3. 修士論文において扱う尺度の種類と特徴を理解する。
4. 記述統計に加え、仮説検証に必要な推計統計（t 検定、ANOVA、MANOVA、回帰分析）を用いてデータを分析できる。
5. 多変量解析の確率的因子分析と構造方程式モデリングを用いて、心理的尺度の構成概念妥当性を検証するとともに、仮説に基づいて要因間の関係性を分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学期の前半は修士論文の遂行において求められる目的、リサーチエスチョン、仮説を適切に設定するとともに、研究目的を達成するために必要とされる研究方法論（尺度の作成、サンプリング、尺度の信頼性および妥当性の検証、仮説の検証）について学習し、倫理申請に対応できるようになる。学期の後半は統計分析に焦点を合わせ、課題に取り組みながら、基礎的な記述統計および推計統計に加え、発展的な多変量解析を学ぶ。演習では修士論文に関連する理論、方法、統計分析についてディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本演習の目的および概要について理解するとともに、スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ。
2 回	研究の目的およびリサーチエスチョン	研究の目的とリサーチエスチョンの特徴をそれぞれ理解し、自身の修士論文についてそれらを適切に設定する。併せて、先行研究の問題点と修士論文の独創性を特定する。
3 回	仮説の導出：理論の応用	修士論文で検証する要因間の関係性の根拠となる理論をいくつか特定し、その応用方法について理解を深める。
4 回	仮説の導出：関係性の説明	仮説検証の理論的根拠となる合理的な説明を構築し、その論理性について検討する。
5 回	研究のデザイン	研究を実施する際の研究のデザインについて、(1) 質的/量的/混合型、(2) 実験的/非実験的、(3) 横断的/縦断的などの区分を考慮し、自身の研究目的に適したデザインを特定する。
6 回	標本抽出方法	修士論文のテーマの母集団とそれを代表する標本を設定し、そのための標本抽出方法を選択する。
7 回	記述統計	実際に二次的データを使用し、度数分布、平均、標準偏差、因子間相関を算出し、記述統計を用いた分析を行う。
8 回	t 検定と分散分析	t 検定と分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
9 回	多変量分散分析	多変量分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
10 回	確率的因子分析の基礎	心理的要因の構成概念妥当性を検証するために必要な確率的因子分析の内容と実施方法について理解を深める。

11 回	確率的因子分析による構成概念妥当性の検証	二次的データを用いて確率的因子分析を行い、心理的尺度の収束的妥当性と弁別的妥当性を検証する。
12 回	構造方程式モデリングの基礎	複雑な関係性に関する仮説検証において有効な構造方程式モデリングの内容と実施方法について理解を深める。
13 回	構造方程式モデリングによる関係性の分析	二次的データを用いて構造方程式モデリングの検証を行い、要因間の関係性を分析する。
14 回	構造方程式モデリングによる多母集団分析	異なる母集団の間で要因間の関係性の強さに違いがないかを検証するため、構造方程式モデリングを用いた多母集団分析を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題に取り組みとともに、そこでの疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

理論に基づく仮説の設定：20 点
統計課題 1（記述統計）：20 点
統計課題 2（基礎的な推計統計）：20 点
統計課題 3（確率的因子分析）：20 点
統計課題 4（構造方程式モデリング）：20 点

【仮説の評価基準】

20 点：適切な理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

15 点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

10 点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

5 点：理論を用いて現象を説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

【統計課題の評価基準】

20 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から合理的な説明を加えられている。

15 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から説明を行っている。

10 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行っている。

5 点：授業の内容を踏まえて分析を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】

This course is a sport management seminar. Its' objectives are to (1) develop a proposal for their master's theses, (2) conduct a pilot study, and (3) design the main study based on the results of the pilot study. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the methodology that is useful for their master's theses.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅱ

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文作成を見据えた演習を行う。スポーツや様々な身体活動における体力に関するこれまでの研究を理解した上で種々の研究方法を習得し、研究計画を設定する。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 健康・スポーツ体力学における研究の手法を理解する。
- ③ 健康・スポーツ体力学に関する研究計画を立案することができる。
- ④ 分析に必要な実験・調査計画法を理解し、データを分析できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する理論や研究方法を体系的に理解した上で、修士論文・研究の遂行に必要な具体的な手法を学ぶことを目標とします。授業においては、毎回課題を出し、次回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。これらの発表に際しての準備および討論等に対する受講者の積極的な参加が重要となります。また、開講学期中に開催予定の修士論文構想発表会において、修士論文の研究テーマ、研究方法を発表するための手法についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	予備実験の結果発表	スポーツ健康学演習Ⅰで実施した予備実験の結果を発表し、結果および今後の課題について論議する。
2 回	方法論の決定	文献研究および予備実験の結果に基づき、修士論文の方法論を決定する。
3 回	研究計画の立案	修士論文の「目的」、「方法」のアウトライン、および「予想される結果」を発表し、論議する。
4 回	研究計画の作成：研究計画書の作成方法	研究計画書の書き方を理解する。
5 回	研究計画の作成：研究計画の発表	修士論文作成に向けた実験・調査に用いる指標や変数を発表し、論議する。
6 回	研究計画の発表	修士論文の研究計画を作成して発表し、論議を行う。
7 回	研究計画の見直し	前回発表・論議の結果を踏まえ、修正した研究計画を発表する。
8 回	修正研究計画の発表	修士論文構想発表会へ向けた準備として、修正した研究計画を発表し、論議を行う。
9 回	要因・方法論の再確認	修士論文構想発表会での指摘などを受け、先行研究の再レビューを踏まえて実験・調査に必要な要因・方法論の再確認を行う。
10 回	実験計画法・分析方法の確認：「実験」の場合	「実験系」研究のデータ分析に必要な研究計画法および統計解析法を理解する。
11 回	実験計画法・分析方法の確認：「調査」の場合	「調査系」研究のデータ分析に必要な研究計画法および統計解析法を理解する。
12 回	推測統計の適用	適切な検定の適用、検定結果の解釈を理解する。
13 回	要因配置・分析方法の決定	種々の要因を総括して要因配置と分析方法を決定する。
14 回	修士論文研究計画の確定	修士論文計画発表会へ向けた発表概要を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回課題が課されますので、それに従って作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（3、5～9、13、14 回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を大成ってください。また、6 回目の「研究計画の発表」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。なお、各授業における準備および復習等の時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

身体活動科学における研究方法/田中喜次他（訳）/ナッブ　・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院　・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

1) 各回における課題の内容および発表・達成状況：40%，2) 「研究計画の発表」、「修士論文研究計画発表会へ向けた発表準備」に関する課題の内容：30%，3) 討論等への参画状況：30%
なお、1) に関して 3 回以上の未発表がある者、2) の課題未発表者については評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、特に修士論文の考察部分において、論理展開が促進されないという状況がみられた。そのため、得られたデータおよび先行研究、さらに研究の社会的意義を踏まえた深い考察ができるよう、履修者とコミュニケーションをとりながら授業を進めていく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学演習Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to comprehensively improve the ability to research data collection and analysis through the creation of research initiatives, preliminary experiments, and surveys. Besides, students will acquire the ability to learn various research methods and set up research proposals with the understanding that the previous research of physical fitness related to sports and various physical activities.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

There are two purposes of the seminar. First, to perform experiments to concretely execute the research plan necessary for master thesis preparation. Second, to create a master's thesis from the methodology of athletic training and/or sports medicine research.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② アスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究の方法論から修士論文を作成する

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する研究方法より、各自の研究計画に基づき研究を実践する。
- ③ 関連分野における学会発表を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究計画に基づき実験等を実践し、議論を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の振り返り、ディスカッション
2 回	研究倫理	研究倫理について、科学的不正行為の7領域について
3 回	研究実践/実験計画	各自の研究計画に基づいた実験計画立案・記載方法について
4 回	研究実践/実験方法	各自の研究計画に基づいた実験方法の確認と検証
5 回	研究実践/参加者と器具及び手順	各自の研究計画に基づいた参加者、使用器具、手順の確認
6 回	研究実践/分析方法	各自の研究計画に基づいた実験結果の分析方法の検討
7 回	中間プレゼンテーション	中間発表に至る過程での振り返りとまとめ、各自のプレゼンテーション、研究方法の再検討
8 回	研究実践/論文抄読1/統計概念の理解	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、統計学の基礎について
9 回	研究実践/論文抄読2/変数間の関係	実験等研究実践報告、
10 回	研究実践/論文抄読3/偏相関・重回帰	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、偏相関・重回帰について
11 回	研究実践/論文抄読4/差の統計的検定	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、t検定と分散分析
12 回	研究実践/論文抄読5/ノンパラメトリック法	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、ノンパラメトリック検定について
13 回	中間発表・予演	各自のプレゼンテーション・ディスカッション
14 回	中間発表会	各自の研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP

【参考書】

広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂
 他、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては修士論文について「方法」の手順に従ってデータを収集し、「結果」の分析および信頼性・妥当性の検討を適切に行うことを目的とします。

【到達目標】

本演習の到達目標は、調査の仕様を確定させ、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集することと、収集したデータから得られた結果を適切な統計手法を用いて分析し、まとめることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
第 2 回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第 3 回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第 4 回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第 5 回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第 6 回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1 章）の研究目的や研究の意義が、方法（4 章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第 7 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
第 8 回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第 9 回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
第 10 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）	推計統計を用いて仮説を検証する。
第 11 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第 12 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第 13 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第 14 回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

データ収集：20 点
 記述統計：20 点
 尺度の信頼性および妥当性：20 点
 仮説検証（関係性）：20 点
 仮説検証（調整変数）：20 点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅲ

苅部 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：2 年次
備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究の考察と修士論文の執筆

【到達目標】

研究計画に沿って実践して得られた結果について考察し、修士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1 対 1 もしくは少人数での集中演習方式で授業を進める。
本授業の開始は 5 月 4 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の進捗状況の確認	これまでの修士論文の進捗状況の確認を行う。
第 2 回	修士論文中間発表	これまでの修士論文の進捗状況について発表する。
第 3 回	発表のフィードバック	発表のフィードバックを行う。
第 4 回	計画の再確認	修士論文執筆に向けた計画の立案・倫理審査を行う。
第 5 回	研究計画の確認と今後の方向性	研究計画に基づき今後の方向性を確認する。
第 6 回	研究計画に基づいた予備調査・実験の実施	研究計画に基づき予備調査・実験を実施する。
第 7 回	研究計画に基づいた調査・実験の実施	研究計画に基づき調査・実験を実施する。
第 8 回	調査・実験結果の整理	調査・実験の結果の整理を行う。
第 9 回	調査・実験結果の分析	調査・実験の結果の分析を行う。
第 10 回	結果の整理、分析の考察	結果の整理・分析に対するディスカッションおよびその考察を行う。
第 11 回	修士論文の執筆計画	論文執筆計画の立案を行う。
第 12 回	中間発表資料の作成	春学期進捗状況の中間発表資料の作成を行う。
第 13 回	中間発表	春学期進捗状況の中間発表を行う。
第 14 回	進捗状況と秋学期の計画確認	前期進捗状況の確認と修士論文完成に向けた計画の作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究の検索、調査などを行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常評価（50 点）発表（50 点）

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

Students develop practical skills to carry out the research plan, which is necessary for writing a master's thesis.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

山本 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマに関する世界を概観する。とりわけメディアの特性や環境を分析し、スポーツとメディアの関係に焦点を絞って、見識を深める。そのためには社会の構造、そこを統御する規範、歴史を知っておかなければならない。

【到達目標】

スポーツ世界を構成する要素の中で、アスリートの周りに展開する肉体やボールの動くベクトルを除けば、勝敗を規定するのは政治・経済・社会であったりする。

研究テーマの周辺で；
 勝ち負けに影響を与える「政治」がどう関わっているのかの把握。
 「経済」はどこにどう影響を及ぼしているかの理解。
 人々の声や環境の変化、すなわち「社会」がスポーツをどう動かすのかの認識。
 それぞれを単体で調べ上げるのではなく、お互いの関係を多層的に縦覧し、スポーツを突き動かす要件の何がどう関わっているかを調べ上げ、それを研究に還元する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

小さなテーマを複数取り出し、その関連をスポーツ世界から抽出してもらおう。小さなスケールで始め、やがて大きなうねりが発見できるように、次第に視野を広げる演習とする。少人数ゆえ、担当教員の研究室を利用し、受講生と日程調整をして実施する。シラバスの記載をベースにししながら、研究の進捗に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：研究するスポーツの個性と周辺環境の洗い出し	自ら取り上げたテーマに関連するスポーツを軸に、類似スポーツの周辺環境を含めてその特性を調べ上げる。
2	スポーツの基礎Ⅰ：当該スポーツと政治	テーマに関わるスポーツの成り立ちや栄枯盛衰に与った因子を、国内・国外を問わず、広い視野から調べてトピックを拾い出す。
3	スポーツの基礎Ⅱ：当該スポーツと経済	当該スポーツが経済的側面からどのような環境に置かれているのか。他のスポーツとも比較しながらその特徴を把握する。
4	スポーツの基礎Ⅲ：当該スポーツと社会	人気、知名度、環境への負荷。社会の中でどのように見られ、取り込まれているのか。見落としがちな側面を分析する。
5	メディアの基礎Ⅰ：メディアとスポーツ	メディアがスポーツをどう取り上げてきたか。メディアのイノベーションも視野に入れながら評価する。
6	メディアの基礎Ⅱ：メディア需要の変化とメディアの変身	社会の中のメディアの受け止められ方と、それによって姿を変えたスポーツの対応を探る。
7	メディアの基礎Ⅲ：ニューメディアに関わるスポーツ	SNS を初めとする、社会メディアとスポーツの関わり方。
8	先行研究調査：研究テーマにかかる先行研究調査	過去から直近までの先行研究の分析と評価。と国海外の研究にも焦点を当てる。
9	スポーツとメディアⅠ：スポーツに触手を伸ばしたメディア	メディアが取り上げた、当該スポーツの歴史と見られ方。
10	スポーツとメディアⅡ：スポーツとメディアの反目	視聴者、読者に対する影響力を失い始めていく。
11	スポーツとメディアⅢ：スポーツとメディアのコラボレーション	メディアスポーツと言われるジャンルが、競技スポーツの中でも幅をきかせている。スポーツとメディアの協力関係をさまざまなスポーツに見る。
12	テーマの周辺を見るⅠ：研究テーマと素材の分析①	研究テーマの周辺で過不足なく情報を収集しきっているか確認する。

- 13 テーマの周辺を見るⅡ：研究テーマと素材の分析② 研究テーマの当事者が 2 以上の場合には、第 2 の当事者周辺の情報収集の経過を確認する。
- 14 講義内小論文：講義内で研究テーマ周辺の課題に関して設問を用意し論文で答える。 研究を進める上で十分な準備ができたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は少なくとも 2 時間は必要。研究を遂行する上では、間断なく視野を広げることが求められる。随時、海外の現況をもとに新たな情報を演習内で披露してもらおう。

【テキスト（教科書）】

使用せず。そのときに応じて、メディアの論調、映像、書籍などを素材に取り上げる。

【参考書】

「放送研究と調査」NHK 放送文化研究所（月刊誌）
 「調査情報」TBS（隔月刊）
 「21 世紀スポーツ大事典」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習の中での完成度を全体の 70 %。
 最終授業日の授業内小論文を 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

海外文献の検索など、これまで以上に視野を広げた演習とする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

プロジェクターとスクリーンを用意し、そこに今を確かめられる情報を投影しながら授業を進める。
 放送界で 32 年間の実務経験あり。放送関係者とは NHK、民法を問わず濃いコンタクトを続けている。研究のアシストとなるようなアレンジメントを適用し、受講者の教育に資するつもりである。

【Outline and objectives】

Surveying the world around the theme of your study. On the way to getting adequate insight, you should analyze the distinctive nature and environment of the media world focusing on sports-media relations. To climb up on the observatory, you should have knowledge of its norm and history.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

吉田 政幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文は「序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論」の7章立てで進める。この授業では第4章の「方法」の手順に従ってデータを収集し、第5章の「結果」の分析を適切に行うことが目的である。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりである：

1. 調査票を確定させるとともに、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集する。
2. 収集したデータを入力するとともに、結果を適切な統計手法を用いて分析し、第5章の「結果」を原稿としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は4月27日（月）とする。
 計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
第2回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第3回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第4回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第5回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第6回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1章）の研究目的や研究の意義が、方法（4章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第7回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
第8回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第9回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
第10回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）	推計統計を用いて仮説を検証する。
第11回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第12回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第13回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第14回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

データ収集：20点

記述統計：20点

尺度の信頼性および妥当性：20点

仮説検証（関係性）：20点

仮説検証（調整変数）：20点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究計画に基づき、修士論文作成に向けた具体的な調査を実践することによって研究遂行能力の向上を図る。授業では各自の進捗状況について討議し、数量的および質的分析の方法や結果の提示の仕方について学ぶ。

【到達目標】

1. 具体的な調査を実践可能な研究遂行能力を習得する。
2. 収集したデータを適切な手法を用いて分析できる。
3. 得られた結果について図表や文章を用いて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文研究計画発表会での指摘内容を踏まえて研究計画を修正し、修士論文の完成に向けた調査に取り組む。各授業では、収集したデータの分析結果などの進捗状況について指導教員や受講生と討議し、結果の解釈や提示の仕方について見直し、最終的には「方法」と「結果」を文章化する。なお、授業開始日は4/22（水）とし、授業はオンラインを用いた非対面方式による個別指導で実施する。対面方式による授業を実施数する場合、事前にその旨を通知します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究計画の見直し	本演習の進め方を理解するとともに、修士論文研究計画発表会での指摘内容を踏まえて研究計画を見直す。
2	調査方法の確認	修士論文作成に向けた具体的な調査方法（日程、期間、対象者等）について討議する。
3	研究計画の確定・調査開始	具体的な調査方法を明示した研究計画書を完成し、調査を開始する。
4	調査における課題の確認	調査の途中経過を報告し、修正等の必要性について討議する。
5	調査の進捗状況の確認	調査の進捗状況を報告し、収集したデータの偏り等について確認する。
6	分析方法の確認	調査の中間報告を行い、分析方法について確認する。
7	データの整理・分析	収集したデータを入力・分析し、結果および対象者の属性について報告する。また、必要に応じてデータの追加や分析方法の変更についても討議する。
8	結果の提示方法	図表を用いた結果の提示方法について討議する。
9	質的データの整理・分析	研究目的に応じた質的分析の手法を用いて収集したデータを整理し、分析する。
10	質的データの提示方法	質的データの分析結果の具体的な提示方法について討議する。
11	研究結果の報告	データ分析の結果を発表し、その内容について討議する。
12	方法の執筆	修士論文における具体的な方法の示し方について学ぶ。
13	結果の執筆	修士論文における具体的な結果の示し方について学ぶ。
14	方法と結果のまとめ	調査の方法および結果を報告書にまとめて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は各4時間です。本授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、国内外の最新の文献を講読するとともに、収集したデータを入力・分析した内容を集約したレポートを作成してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

2. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキークエスション サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013
3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価します。

1. 調査の方法および結果をまとめた報告書：40%
 2. 各授業時に提出するレポートおよびデータ分析の結果をまとめたレポート：40%
 3. プレゼンテーション：20%
- ※報告書では、研究目的を踏まえた研究計画（方法、結果）が適切に記述されているかを評価します。
 ※各レポートでは、授業の内容を踏まえた上で適切に記述・分析できているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

1. スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

Based on the research plan, students will improve the ability to perform research by conducting specific surveys for the preparation of a master's thesis. In the class, students discuss each student's progress and learn how to perform quantitative and qualitative analysis and present the results.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅲ

瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究計画を実施するための能力の習得
 ②調査・分析の実施

【到達目標】

- ①9月に実施予定の修士論文中間発表会の準備ができる力を身につけること
 ②研究計画に基づいて修士論文作成に必要なデータの収集を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

I、II で習得した実験方法を用いてデータの集積をおこない、整理や分析をおこなう。
 必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	研究計画の確認と今後の方向性について
2	調査・実験の実施計画の確認	研究計画に基づいた調査・実験の実施のための最終確認
3	結果の整理方法の確認	結果の整理、分析とそれに対するディスカッションの方法の確認
4	論文抄読会/リサーチエスチョン	リサーチエスチョンにかかわる抄読会
5	予備実験	予備実験の実施
6	調査・実験の実施	研究計画に基づいた調査・実験の経過報告
7	論文抄読会/統計	使用する統計にかかわる抄読会
8	調査・実験の継続	研究計画に基づいた調査・実験の最終報告
9	結果の整理	結果の整理、分析とそれに対するディスカッション
10	論文抄読会/関連領域	関連領域にかかわる抄読会
11	追加実験の検討	前回までの結果を踏まえた追加実験の検討
12	修士論文作成について	修士論文作成の開始のための講義/劉蔚などの違法行為についての講義
13	修士論文中間発表会への対応	修士論文中間発表会への準備、討議
14	中間発表	研究内容の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連した領域内の文献の精読、資料作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適時必要な文献などを提示する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）
 口頭試問（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし
 教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。
 そのため現場で求められるものを授業に展開可能である。

【Outline and objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

- 1: acquire the ability to implement the research plan necessary for master's thesis
- 2: conduct research and analysis.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。

【到達目標】

- ①引き続き、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究を実践する。
 ②研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
 ③関連分野における学会発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究実践結果に基づき議論を行うとともに、修士論文を完成させる

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	これまでの各自の研究の振り返り、ディスカッション
2 回	研究実践/方法論の振り返り	実験等自身の行ってきた研究方法の振り返り
3 回	研究実践/結果のまとめ	実験等自身の行ってきた研究の結果報告
4 回	研究実践/結果に基づいた考察	自身の行ってきた研究の結果に基づいて考察する
5 回	研究実践/考察（外傷・障害予防の観点）	自身の行ってきた研究について外傷・障害予防の観点から考察する
6 回	研究実践/考察（運動機能評価の観点）	自身の行ってきた研究について運動機能評価の観点から考察する
7 回	学会発表予演およびディスカッション	自身の行ってきた研究のプレゼンテーションおよびディスカッション
8 回	学会発表	関連各種学会で研究発表を行う
9 回	研究実践/考察（アスレティックトレーニング全般含む）	学会発表で得られた知見を踏まえてさらに考察を深める
10 回	研究実践/考察の完成	自身の研究の考察までを文章として完成させる。
11 回	修士論文の完成（仮）	予備審査提出用の修士論文を完成させる
12 回	査読後の修士論文チェック	予備審査を踏まえて、修士論文を推敲する
13 回	修士論文の完成および最終発表予演	修士論文を完成させるとともに審査会用のプレゼンテーションの予演を行う
14 回	最終発表会	修士論文の最終発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP

【参考書】

広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂、2019
 他、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

There are two purposes of the seminar. First, to create a master's thesis from the introduction to the conclusion. Second, to prepare for final presentation and master's thesis review board.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究をまとめ、その成果を発信する能力を身に付けること、研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げることを目的とする。

【到達目標】

本講義では結果が示唆する内容についてまとめ、考察部分を書き上げること、主・副指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまでの学習を基に、修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第 2 回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第 3 回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第 4 回	考察（調整変数の影響）	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を考察し、研究環境やグループ間の違いを説明するとともに、結果が示す学術的貢献についても記述する。
第 5 回	考察（棄却された仮説）	仮説どおりにならなかった結果や予期しなかった結果について、何故そのような事態になったのか慎重に考察する。
第 6 回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
第 7 回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第 8 回	研究の目的、結果、考察つながり	研究を通じて目的がどの程度達成されたかどうかを確認し、論理性に問題があれば修正する。
第 9 回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第 10 回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第 11 回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の 7 章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第 12 回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
第 13 回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。
第 14 回	論文審査への対応方法（原稿の修正）	各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10 点
 考察（仮説検証）：10 点
 考察（予期せぬ結果）：10 点
 考察（学術的貢献）：10 点
 考察（実践的貢献）：10 点
 考察（研究の限界と今後の展望）：10 点
 結論（目的の達成度）：10 点
 文章力：10 点
 書式、体裁、参考文献、巻末資料：10 点
 全体を通しての完成度：10 点
 合計：100 点

【評価基準】

それぞれの観点から以下の基準に従って評価する：

10 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。

8 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性がある。

6 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性がある。

4 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげている。

2 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では論理性に注意し、履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline and objectives】

The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

苅部 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成、口頭発表の手法を学ぶ。

【到達目標】

研究計画に沿って実践して得られた結果について考察し、修士論文の作成準備を行うとともに口頭発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1 対 1 もしくは少人数での集中演習方式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表資料の作成	中間発表の資料を作成する。
第 2 回	中間発表	修士論文中間発表を行う。
第 3 回	中間発表のフィードバック	中間発表の結果をうけ、フィードバックを行い、修士論文の完成に向け執筆の準備を行う。
第 4 回	修士論文の研究デザインの最終検討	修士論文の研究デザインの最終検討を行い、論文完成への方向性を確認する。
第 5 回	修士論文の作成① 論文のアウトライン	論文のアウトラインを作成し、執筆指導を行う。
第 6 回	修士論文の作成② 推敲、校正	修士論文の添削から推敲、校正を繰り返す。
第 7 回	修士論文の作成③ 論文形式調整	さらに修士論文の推敲、校正を繰り返し行い、論文としての形式を整える。
第 8 回	修士論文の執筆④ 論文構成チェック	修士論文の全体的な推敲を行い、論文構成のチェックを行う。
第 9 回	修士論文の作成⑤ 最終校正	修士論文 1 次提出に向け、最終校正を行う。
第 10 回	修士論文 1 次提出	修士論文を完成させ主査、副査に提出し、予備審査を受ける（1 次提出）。
第 11 回	1 次提出された論文のフィードバック	副査も含めた、1 次提出された論文のフィードバックを行い、審査結果を踏まえて、修士論文を推敲する。
第 12 回	修士論文口頭発表資料の作成	修士論文口頭発表資料の作成を行う。
第 13 回	修士論文口頭発表資料の作成および口頭発表リハーサル	修士論文口頭発表の最終チェックを行い、発表のリハーサルを行う。
第 14 回	修士論文最終提出に向けた準備	修士論文の最終提出に向けた準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究を熟読することと、実験、調査の整理を行う。
 論文の執筆、校正を行うこと。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた準備・進捗状況（70 %）、口頭発表 2 回（30 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって、有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】

Students examine the results collected through analysis in accordance with their research plan and then complete a master's thesis.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマの進捗状況に応じて、周辺の情報整理、調査の正確性、統計の適正摘要、インタビューの分類などをチェックしながら、修士論文完成に向けての道をつける。

【到達目標】

完成度の高い修士論文執筆はもとより、そこに時代と土地（「今」「どこで」）、社会環境の反映された論旨が展開できることを目標とする。
そのためには、研究テーマの舞台となる地域の特性をしっかりとわきまえた上での、大所高所からの指摘につなげる。
調査やデータを揺るぎない礎石として持論を繰り広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究の進展に伴って、時間を合理的に捻出。調査、研究の段落を迎えるところで、随時、集中的に演習を展開する。
途中経過では、ブロックごとの発表。他の章との整合性確認など、大局観を意識しながら、子細な分析に瑕疵のないことを確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中間報告Ⅰ	論文の章ごとの完成度を上げる。
2	中間報告Ⅱ	論文の章間の整合性を確認する。
3	中間報告Ⅲ	論文の中に現れる彼我の世界観の違いが、統一した論旨を損ねていないか検証する。
4	中間報告Ⅳ	類似論文の論調を分析しながら、自己の研究に照らし合わせて瑕疵を探る。
5	中間報告Ⅴ	複数の章にまたがって、論旨の流れの向かう先を検証する。
6	研究反芻Ⅰ	調査から時間を経過したところで、調査結果に連動する情報を確認する。
7	研究反芻Ⅱ	インタビューの声を改めて洗い出し、2020 東京大会の世論の反応などを参考に改めて研究内容を精査する。
8	研究反芻Ⅲ	2020 東京後の社会の反応（メディアを含め）を概観し、研究に反映させる。
9	校正チェック	論文の中身の検証。
10	情報再確認	データ、情報、調査結果の数値、索引などのチェック。
11	最終チェック	全体を再確認する。
12	プレゼンテーションⅠ	研究成果に基づき、プレゼンテーションを再考する。
13	プレゼンテーションⅡ	研究成果のプレゼンテーションを完成させる。
14	完成前点検	研究全体を改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究のみならず、同時並行で公開される類似分野の論文、書籍には間断なく目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は少なくとも各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前指定は特になし。

【参考書】

研究テーマにしたがって、随時指定し推薦する。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆の過程での思考過程、情報選択、調査方法の適正性を検証。これを 20 % とし、論文本編の評価を 80 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規対応のため、過去の意見提示はない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【その他の重要事項】

教員は過去に放送局でスポーツ報道・放送に 32 年間の実務経験あり。オリンピック、W 杯サッカー、冬季競技、甲子園、プロ野球などさまざまなイベント、競技の取材報道経験あり。研究分野がメディアとの間に関連を持つ場合は、人脈、取材方法を含め多様な展開をサポートする。

【Outline and objectives】

Depending on the progress of the theme, the way for the master's thesis would be completed, while checking the neighboring information, the accuracy of the investigation, the appropriate summary of statistics, the classification of the interview.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

吉田 政幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究を実施した成果を発信する能力を身に付ける。
2. 各自の研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げる。

【到達目標】

履修者は本演習を通じて以下の目標に到達する：

1. 第 5 章の結果が意味する内容、学術的貢献、実践的提案、研究の限界、今後の展望などに関する考察（第 6 章）を書き上げる。
2. 指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学院における講義、演習、実習などを通して得た知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第 2 回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第 3 回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第 4 回	考察（調整変数の影響）	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を考察し、研究環境やグループ間の違いを説明するとともに、結果が示す学術的貢献についても記述する。
第 5 回	考察（棄却された仮説）	仮説どおりにならなかった結果や予期しなかった結果について、何故そのような事態になったのか慎重に考察する。
第 6 回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
第 7 回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第 8 回	研究の目的、結果、考察つながり	研究を通じて目的がどの程度達成されたかどうかを確認し、論理性に問題があれば修正する。
第 9 回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第 10 回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第 11 回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の 7 章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第 12 回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
第 13 回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。

第 14 回 論文審査への対応方法（原稿の修正）

各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10 点

考察（仮説検証）：10 点

考察（予期せぬ結果）：10 点

考察（学術的貢献）：10 点

考察（実践的貢献）：10 点

考察（研究の限界と今後の展望）：10 点

結論（目的の達成度）：10 点

文章力：10 点

書式、体裁、参考文献、巻末資料：10 点

全体を通しての完成度：10 点

合計：100 点

【評価基準】

それぞれの観点を以下の基準に従って評価する：

10 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。

8 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性がある。

6 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性がある。

4 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげている。

2 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では論理性に注意し、履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline and objectives】

The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management.

OTR60011

スポーツ健康学演習Ⅳ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成において求められる総合的な研究遂行能力の向上を目指す。授業では、緒言、方法、結果、考察、結論、今後の課題、引用文献の提示方法や展開の仕方について討議しながら理解を深める。

【到達目標】

1. 得られた結果について科学的根拠に基づく考察をすることができる。
2. 結果と考察を踏まえた上で結論を述べることができる。
3. 研究の限界や今後の課題を指摘できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文の完成に向けて、特に緒言、考察、結論、今後の課題、引用文献の展開方法や提示の仕方について学ぶ。各授業では、受講者が研究の進捗状況について発表し、指導教員や受講生との討議を通して課題の明確化を図る。最終的には、これまでの成果をまとめて修士論文を完成するとともに口頭発表の準備を整える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究内容の確認	本演習の進め方を理解するとともに、スポーツ健康学演習Ⅲでまとめた方法と結果の内容について確認する。
2	考察の仕方	得られた結果について考察した内容を発表し、それについて討議する。
3	考察の展開	考察の展開の仕方について発表し、それについて討議する。
4	考察の執筆	考察の内容を文章化して発表し、それについて討議する。
5	結論の展開	得られた知見をまとめた結論を発表し、それについて討議する。
6	研究の意義・今後の課題	結果と考察に基づき、研究の意義と今後の課題について発表し、それについて討議する。
7	緒言の構成	これまでの内容を踏まえた上で、緒言の構成の仕方について発表し、それについて討議する。
8	緒言の展開	緒言の内容を発表し、それについて討議する。
9	緒言の執筆	前回の授業内容を踏まえて修正した緒言の内容を発表し、それについて確認した上で緒言を執筆する。
10	文献の書き方	先行研究が適切に引用されているかを確認するとともに、引用文献の書き方について学ぶ。
11	引用文献の執筆	文献の書式を確認した上で、引用文献について執筆する。
12	修士論文の構成・執筆	これまでの内容を集約した論文の構成を発表し、その内容について確認する。
13	修士論文の確認・校正	論文における主張が首尾一貫しているかについて確認し、必要に応じて修正する。
14	Abstract の作成・発表の準備	論文の Abstract を作成するとともに口頭発表の準備を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は各 4 時間です。本授業は修士論文完成に向けたプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、緒言、結果、考察、結論、今後の課題、引用文献についてまとめ、発表できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

2. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスション サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013

3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価します。

1. 緒言、考察、結論、今後の課題、引用文献をまとめた各報告書：80%

2. 中間発表会におけるプレゼンテーション：20%

※報告書では、規定に則った記述がなされているかについて評価します。

※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドや抄録の出来栄について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

1. スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

Students will aim to improve the comprehensive research performance required in master's thesis writing. In the class, students will deepen their understanding by discussing introductions, methods, results, considerations, conclusions, future tasks and how to present and develop cited references.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅳ

瀬戸 宏明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

1: improve the thinking and writing skills necessary for writing a master's thesis

2: complete the master's thesis

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①論文作成に必要な考察力、文章力の強化

②修士論文の完成

【到達目標】

①得られたデータの分析、それに基づく考察

②修士論文の提出

③学会発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまでに得られた結果を踏まえて、自身のリサーチエスションに対する検証をおこなう。そして先行研究などと比較もおこない修士論文を作成していく。

必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文完成への方向性の確認
2	結果の総括/リサーチエスションとの関連性	自身のリサーチエスションに対する実験方法の妥当性や結果の信頼性などについての検討
3	結果の総括/今後の発展性	実験、解析のふりかえりと反省、今後への見通しと発展の可能性についての検討
4	結果の考察/学会発表の予演	結果についてのディスカッション/学会の予演
5	学会発表	学会発表をおこなう
6	結果の考察/先行研究との比較	結果についてのディスカッション/先行研究との比較とその意義についてなど
7	結果の考察/検証方法	結果についてのディスカッション/結果の信頼性の具体的な検証の方法についてなど
8	結果の考察/統計手法	結果についてのディスカッション/統計の方法など
9	ディスカッション/解釈	結果についてのディスカッション/結果の解釈について
10	ディスカッション/その他の因子	結果についてのディスカッション/その他の包絡因子などの検討など
11	ディスカッション/limitation	結果についてのディスカッション/研究の限界についてなど
12	ディスカッション/総括	結果についてのディスカッション/結果の総括
13	最終発表の予演	発表内容についての検討
14	修士論文の提示	修士論文の完成形の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連した領域内の文献の精読、資料作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

論文など適時指定する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成までの過程（80 %）

口頭試問（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。

そのため現場で求められるものを授業に展開可能である。

【Outline and objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

